

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P01	授業研究の開発実践 Development of Lesson Study		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
露口 健司, 平松 義樹, 高橋 葉子, 森田 桂子 [TSUYUGUCHI Kenji, HIRAMATSU Yoshiki, TAKAHASHI Yoko, MORITA Keiko]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（教育課程）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

授業研究の開発実践
Development practice of lesson reserch

授業のキーワード

授業研究(lesson reserch)、開発(development)、実践(practice)

授業の目的

「研究授業」と「授業研究」の違いを知り、「授業研究」の開発実践ができる資質・能力を身に付ける。
そのため、戦後の授業研究の系譜を概観し、量的分析と質的分析の代表的な手法を学び、授業の観察システムとしての種類と特性を知る。また、愛媛県教育委員会が推進している「参加型授業研究」の現状と課題を知る。

授業の到達目標

- ① 「研究授業」と「授業研究」の相違点が説明でき、量的分析。質的分析のパラダイムと授業観察システムを理解する。
- ② 学校現場で実施している授業研究に参加し、①の観察して住むによりデータを収集・分析し、課題を明らかにする。
- ③ 課題克服のための提案を、プレゼンテーションの形でまとめ発表する。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる

授業概要

「研究授業」と「授業研究」の違いを知り、「授業研究」の開発実践ができる資質・能力を身に付ける。
そのため、戦後の授業研究の系譜を概観し、量的分析と質的分析の代表的な手法を学び、授業の観察システムとしての種類と特性を知る。また、愛媛県教育委員会が推進している「参加型授業研究」の現状と課題を知る。

授業スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 「よい授業」とは
- 第3回 学力低下と基礎基本
- 第4回 学力をめぐる諸問題
- 第5回 NHK教師の時間
- 第6回 「えひめ授業の鉄人」の授業
- 第7回 「参加型授業分析」
- 第8回 「研究授業」と「授業研究」
- 第9回 校内研修の現状と課題
- 第10回 学校現場の研究会の実態①
- 第11回 学校現場の研究会の実態②
- 第12回 学校現場での授業開発の実態①
- 第13回 学校現場での授業開発の実態②

授業時間外学習にかかわる情報

何回か課題レポートを課す予定ですので、授業時間外に学習してください。

成績評価方法

- ・レポート評価
- ・「学習感想カード」等

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	よくわかる授業論			ISBN	9784623043323
	著者名	田中耕治	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	2007

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	学ぶこと 教えること			ISBN	9784760834082
	著者名	藤岡完治他	出版社	金子書房	出版年	1997

教科書・参考書に関する補足情報

各授業においてプリント資料を配布します。教科書等は購入の必要はありません。

オフィスアワー

水曜日の午前（10:00～11:30）
会議等で不在の場合は、メールでお受けします。

Eメールアドレス

hiramatsu.yoshiki.mx@ehime-u.ac.jp

連絡先

持田町1丁目5番22号 教育学部附属小学校内 教育実践総合センター
913-7882

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P02	授業開発の理論と実際 Theory and Practice for Lesson Development		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
吉村 直道, 高橋 葉子, 井上 洋一 [YOSHIMURA Naomichi, TAKAHASHI Yoko, INOUE Yoichi]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（教育課程）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

授業開発の理論と実際（Theory and Practice for Lesson Development）

授業のキーワード

授業開発(lesson development), ピアジェ理論(Piagetian theory), ビゴツキー理論(Vygotskian theory), デューイ理論(Dewey Theory), 事例分析(Example analysis)

授業の目的

高度な教育実践力を育成するため、現在求められる学力についての考究、授業づくりの主要な基礎理論とそれに基づく多様な学習法の理解、実際の実践事例の解釈を通して、具体的な授業運営の構想と修得・活用・探究を目指した授業構成が提案できるようになることが、本授業の目的である。

授業の到達目標

○「生きる力」へとつながる主体的な学力を保證する学習のあり方について、学力観、学習観、指導観（指導法）それぞれについて再考し、授業を構想・運営する際の理論的基盤を構築する。
 ○実際に授業を構想・運営できる実践力の伸長として、学習指導案の作成を含め、特に、課題設定・板書・ノート指導・ねりあげ（多様なアイデアをいかす／まとめる／高める）に焦点をあてて考究し、それらの場面で専門的かつ高度な実践力を身につける。
 ○習得・活用・探究の授業それぞれを分析評価し、習得・活用・探究にふさわしい授業のあり方について考究するとともに、授業の終わりの場面である「まとめ」に注目し、授業が学習内容の理解達成で終わるのではなく、その授業を契機として更なる学習へとつながるような授業のあり方についても考究し、習得・活用・探究を目指した授業の構想・運営ができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

必要な情報を収集・整理できる
 個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 他者を理解し、他者のために役立つことができる

授業概要

実際に小・中・高等学校で教育経験のある教員が、各回のテーマに沿って資料を準備し、受講生とともにディスカッションやレポートによる意見交換を通して、授業開発の理論構築や授業展開のための実践力の伸長を図る。授業開発の理論を構築するための重要な視点として、学力観・学習観の検討にはじまり、多様な学習方法の理解があげられる。それらに注目しながら、受講者との授業開発の理論構築に努力する。また、授業展開のための実践力の伸長として、学習指導案の作成・課題設定・板書・ノート指導・ねりあげ・授業の終わりのまとめ等について受講者と考究し、それらの実践的能力を育成する。加えて、習得・活用・探究にふさわしい授業のあり方についても理解を深め、実際の授業における実践的能力を高める。

授業スケジュール

第1回：オリエンテーション
 The first:Orientation

本授業の目的ならびに進め方等について確認する。次回のテーマである「学力」についてプレディスカッションを行う。「あなた個人の考える学力とは？」「昭和の時代の学力とは？」「平成の時代の学力とは？（新しい学力観）」など。

第2回：学校教育に求められる学力観の構築(1)

The second:Overview of change on academic ability view for school education(1)

教育の目標からみた学力戦後の教育史を概観するとともに、教育基本法・学校教育法の改正において明確化された学力の3要素をキーワードとし、「生きる力」を目標とした現在の学校教育で求められている学力について考究する。

第3回：授業開発における理論的基盤の構築(2)

The third:Overview of change on academic ability view for school education(2)

国際標準学力OECDのDeSeCoプロジェクトを概観し、国際社会で求められる3つのコンピテンシーについて理解し、現在取り組まれているPISA調査やPISA型学力等を検討する。

第4回：授業づくりのための基礎理論の構築(1) ピアジェ理論とピゴツキー理論

The 4th:Basic theory for teaching(1)

ピアジェとピゴツキーの理論を比較しながら、発達と学習の関係、構成の原理と媒介論、発達段階論とZ.P.D.理論等について考え、学習のあり方に寄与する基礎理論について考究する。

第5回：授業づくりのための基礎理論の構築(2)

The 5th:Basic theory for teaching(2)

デューイ理論デューイ理論を通して、現代の学校教育をふり返る。

第6回：多様な学習法の理解

The 6th:Understanding of various learning methods

構成的アプローチの学習、教えて考えさせる学習、問題解決的な学習、発見的学習、教授説明的学習などの学習指導法を概観し、多様な学習法についての理解を深める。

第7回：実際の事例観察

The 7th:Actual case observations

いくつかの実践事例を観察し、これまで考究した学力観ならびに学習理論・学習法をもとに批判的に検討する。

第8回：学習目標の設定と学習指導案の作成

The 8th:The setting of the learning target and preparation of lesson plan

教材研究に基づいた学習目標の設定の留意点を整理するとともに、愛媛県東温市立南吉井小学校で開発された新しい学習指導案を理解し作成する。

第9回：構造的な板書と児童・生徒のノート指導について

The 9th:On structural layout of board book and note guidance for children and students

構造的な板書はどうあるべきか、また児童・生徒のノート指導はどうあるべきかについて考究する。

第10回：多様な考えの生かし方・まとめ方(1) 理論的理解

The 10th:How to summarize various ideas(1)

妥当な考えが複数出されたとき、それらの考えを独立的な多様性・序列化可能な多様性・統合化可能な多様性・構造化可能な多様性にわけながら、それらの生かし方まとめ方について検討し理解する。

第11回：多様な考えの生かし方・まとめ方(2) 模擬実践

The 11th:How to summarize various ideas(2)

多様な考えが出された事例をいくつか用意し、実際にどのように生かしたりまとめたりするか実演しながら、事例に則した考えの生かし方まとめ方について検討する。

第12回：習得を目指した授業事例の分析と授業検討

The 12th:Analysis of lesson examples aimed at acquisition

習得を目指した実践事例を対象として授業分析を行い、習得を目標とした授業のあり方について考究する。

第13回：活用を目指した授業事例の分析と授業検討

The 13th:Analysis of lesson examples aiming at practical use

活用を目指した実践事例を対象として授業分析を行い、活用を目標とした授業のあり方について考究する。

第14回：探究を目指した授業事例の分析と授業検討

The 14th:Analysis of lesson examples aimed at study

探究を目指した実践事例を対象として授業分析を行い、探究を目標とした授業のあり方について考究する。

第15回：活用・探究のための授業の「まとめ」のあり方についての検討

The 15th:discussion on the way of "summary" of lesson

授業の終わりの場面に設ける「まとめ」に注目し、どのように授業をまとめ、次の学習につなげればよいのか検討する。特に、活用・探究の授業において「まとめ」は重要であると考えるので、活用・探究の授業を考察の場面とする。

授業時間外学習にかかわる情報

適宜、レポート課題を課す予定です。そのレポートを持ち寄り、受講者と教員とでディスカッションしながら講義を進めていきます。

成績評価方法

レポート(60%)、ディスカッションにおける様態観察(40%)によって、各テーマごと、受講生の理解状況、妥当で柔軟な自身の見解構築、ならびに授業展開の高度な実践力を評価する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	小学校学習指導要領解説（総則編）			ISBN	9784491023700
	著者名	文部科学省	出版社	東洋館出版	出版年	2008

参考書2	書名	中学校学習指導要領解説（総則編）			ISBN	9784324900024
	著者名	文部科学省	出版社	ぎょうせい	出版年	2008

参考書3	書名	キー・コンピテンシー―国際標準の学力をめざして―			ISBN	9784750323503
	著者名	ドミニク・S・ライチェン&ローラ・H・サルガニク	出版社	明石書店	出版年	2006

参考書4	書名	発生的認識論			ISBN	9784560055199
	著者名	ジャン・ピアジェ	出版社	白水社	出版年	1972

参考書5	書名	思考と言語			ISBN	9784788041103
	著者名	ビゴツキー	出版社	新読書社	出版年	2001

参考書6	書名	民主主義と教育（上）			ISBN	9784003365236
	著者名	J.デューイ	出版社	岩波文庫	出版年	1975

参考書7	書名	算数科 多様な考えの生かし方まとめ方			ISBN	9784491007625
	著者名	古藤怜	出版社	東洋館出版	出版年	1992

教科書・参考書に関する補足情報

教科書は特には指定しない。基本的に、授業で配布する資料にもとづきながら、講義をすすめる。

オフィスアワー

オフィスアワーは、第1回の授業で周知します。
訪問の際は、事前にメール連絡をして来室していただくと、お互いに助かります。

Eメールアドレス

naomichi@ehime-u.ac.jp

連絡先

研究室：教育学部2号館3F（322室）

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	22P01	心の教育の理論と実践 Theory and Practice for Moral Education		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
太田 佳光, 小田 哲志, 杉田 浩崇 [OTA Yoshimitsu, ODA tetsushi, SUGITA Hirotaka]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（教科等）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

心の教育の理論と実践（Theory and Practice for Moral Education）

授業のキーワード

道徳教育（Moral Education）, 特別活動(Extra-Curricular Activities)

授業の目的

現代の教育課題への対応のため、道徳教育や特別活動を通じた、学校全体での心の教育のあり方を理解する事ができ、その実践を行う事ができる。

授業の到達目標

- ①心の教育の課題とあり方について理解し、その重要性について説明ができる。
- ②道徳教育や特別活動の時間を中心とした心の教育の方法について理解し、実践的な取組ができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

規範意識の低下やいじめなどの現代的課題に対応するために、道徳教育を中心とし、特別活動を視野に入れた心の教育の理論とその方法論について検討する。まず、道徳の時間を中心とした心の教育の取組について、事例検討を深め、具体的な授業案の作成を行う。さらに、授業案の検討を通して、教科化を視野に入れた道徳教育のあり方について考察する。また、特別活動を中心とした取組についても同様に検討を行い、心の教育を実践する能力を育成する。

授業スケジュール

- 第1回：心の教育の課題と必要な視点（担当：太田佳光・小田哲志）
- 第2回：道徳教育の基本的な考え方と理論的背景（担当：太田佳光）
- 第3回：道徳教育を中心とした取組の事例検討（1）：小学校を中心にして（担当：小田哲志）
- 第4回：道徳教育を中心とした取組の事例検討（2）：中学校を中心にして（担当：小田哲志）
- 第5回：道徳の時間の事例検討（1）：小学校の取組を中心にして（担当：小田哲志）
- 第6回：道徳の時間の事例検討（2）：中学校の取組を中心にして（担当：小田哲志）
- 第7回：道徳の時間に必要な視点（担当：太田佳光）
- 第8回：道徳の時間の授業案作成（担当：小田哲志）
- 第9回：授業案の発表と討議（担当：太田佳光・某）
- 第10回：特別活動を中心とした取組の事例検討（1）：小学校を中心として（担当：小田哲志）
- 第11回：特別活動を中心とした取組の事例検討（2）：中学校を中心として（担当：小田哲志）
- 第12回：特別活動の時間に必要な視点：学級活動を中心に（太田佳光）
- 第13回：学級活動の授業案の作成（太田佳光）
- 第14回：授業案の発表と討議（太田佳光・小田哲志）
- 第15回：授業の総括と課題の確認（太田佳光・小田哲志）

テキスト

小・中学校学習指導要領解説 道徳編、特別活動編

参考書・参考資料等

押谷由夫編『自ら学ぶ道徳教育』保育出版社、平成23年。相原次男他編『新しい時代の特別活動』ミネルヴァ書房、平成22年。

授業時間外学習にかかわる情報

授業受講前に、配布資料を精読する必要がある。また、指導案の作成を事前に準備する必要がある場合がある。詳しくは、授業時に指示する。

成績評価方法

討議・報告・授業への取組（50%）、レポート（50%）

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	小・中学校学習指導要領解説 道徳編、特別活動編			ISBN	-
	著者名	-	出版社	-	出版年	-

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	自ら学ぶ道徳教育			ISBN	9784938795962
	著者名	押谷由夫編	出版社	保育出版社	出版年	平成23

参考書2	書名	新しい時代の特別活動			ISBN	9784623057641
	著者名	相原次男他編	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	平成22

教科書・参考書に関する補足情報

-

オフィスアワー

木曜16:30~17:30

Eメールアドレス

ota.yoshimitsu.my@ehime-u.ac.jp

連絡先

附属教育実践総合センター（913-7863）

参照ホームページ

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	12P03	授業における学習支援と指導法の事例分析 Case Study on Support and Instruction in Lessons		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
吉村 直道, 向 平和, 立松 大祐, 高橋 葉子, 遠藤 敏朗 [YOSHIMURA Naomichi, MUKO Heiwa, TATEMATSU Daisuke, TAKAHASHI Yoko, ENDO Toshiro]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（教科等）	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

授業における学習支援と指導法の事例分析（Case Study on Support and Instruction in Lessons）

授業のキーワード

認知カウンセリング(Cognitive counseling), 机間指導(desk guidance), 事例分析(case analysis), S P表分析(SP table analysis)

授業の目的

教科指導力についての高度な実践力を育成するために、個々の学習者への学習支援のあり方について知見を深めることは必須であるとともに、実際の事例をもとに課題の発見・分析とその解決を提案できるようになることは極めて重要である。この授業では、学習支援を考究するための基礎理論を学ぶとともに、具体的な学習支援のあり方や実際のつまずき場面に例にその対応実践について考究していく。

授業の到達目標

- 学習支援の理論的基盤として「認知カウンセリング」を理解する。
- 学習形態（クラス全体協議、グループワーク、個別学習）に応じた学習指導のあり方について理解する。
- 机間指導に関する実践的な実践力を、机間指導・机間支援・机間巡視に分けて理解し伸長する。
- 教科ごと（算数・数学、英語、理科）、子どもたちの特定のつまずきを事例分析し、つまずきに対する指導力を高める。
- S P表分析や単元テスト等を用いて、補充的な学習を必要とする児童・生徒を特定できる。
- 学習支援を意識した学習環境づくりを構想できるようになる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

授業概要

前半では、特に特定の教科に限定せず、授業における学習支援について一般的に考究していく。まずは、主体的な学習者を育成する学習支援を考究するための基礎理論として、本授業では市川氏の「認知カウンセリング」の理解を図る。その考えのもと、まず授業における3つの学習形態（クラス全体での協議、グループワーク、個別学習）に注目し、そのそれぞれの場面での学習支援について、受講生全員で考究する。次に、机間指導について注目し、個人との対面指導における学習支援のしかたについて再考し、学習支援の実践力を高める。後半、算数・数学、英語、理科に限るが、具体的な教科指導のなかで、子どもたちのつまずきを予想し対応できる実践力の育成に努めていく。その際、実際の事例観察などをもとに、受講者から予想されるつまずきを想像し発表してもらい、そしてそのつまずきに対してどう対応すべきかを提案させ、それを受講者全員で修正改善する。このような一連の活動を通して、つまずきに対する指導力を高めていく。

授業スケジュール

第1回：オリエンテーション
The first:Orientation

第2回：認知カウンセリングの理解
The second:Understanding of the cognitive counseling

第3回：全体指導における学習支援の留意点
The third:Notes on learning support in general guidance
教師の役割をはじめ、具体的な教授活動である発問・指名、板書、ねりあげのしかた等について考究し、そのあり方について理解する。

第4回：グループ学習における学習支援の留意点
The 4th:Notes on learning support in group learning
グループ活動に焦点をあて、適正なグループ編成やグループワークをさせる際の留意点等について協議・検討する。

第5回：個別学習における学習支援の留意点
The 5th:Notes on learning support in individual learning
助言の与え方や教師の体の使い方など、個別学習に取り組む際の留意点等について理解する。

第6回：机間指導・机間支援・机間巡視について
The 6th:Desk guidance and desk assistance(1)
授業において児童・生徒の近くに歩みより個々人の学習状況に応じて行う学習支援を、机間指導、机間支援、机間巡視の3つに分けながら、それぞれの学習支援のあり方について理解する。

第7回：机間指導・机間支援・机間巡視の実践
The 7th:Desk guidance and desk assistance(2)
実際に個別学習を設定し、机間指導・机間支援・机間巡視の模擬実践を行い、その様子を評価・検討し、個に対する学習支援の実践力を高める。

第8回：算数・数学学習における児童・生徒のつまずきの事例分析
The 8th:Case analysis of children and student's mistake in mathematics learning(1)

第9回：（学生発表）算数・数学学習における児童生徒のつまずきへの対応例
The 9th:Case analysis of children and student's mistake in mathematics learning(2)

第10回：英語学習における児童・生徒のつまずきの事例分析
The 10th:Case analysis of student's mistake in English learning(1)

第11回（学生発表）英語学習における児童・生徒のつまずきへの対応例
The 11th:Case analysis of student's mistake in English learning(2)

第12回：理科学習における児童・生徒のつまずきの事例分析
The 12th:Case analysis of children and students' mistake in science studies(1)

第13回：（学生発表）理科学習における児童・生徒のつまずきへの対応例
The 13th:Case analysis of children and students' mistake in science studies(2)

第14回：補充的な学習が必要な児童・生徒の特定について
The 14th:Understanding about SP table analysis
単元テストの整理の仕方、テスト結果に対するS P表分析による学習者理解を通して、補充的な学習指導が必要な児童・生徒の特定の仕方について理解する。

第15回：学習環境・就学時間の工夫による学習支援のあり方と総括
The 15th:Device of learning environment
背面黒板、教室の壁・棚、学級通信、学校のコモンスペース、学級文庫、朝の時間・帰りの時間、放課後、休憩時間、家庭学習など、どのように利用して多様な児童・生徒たちに対して学習支援することができるかについて議論する。

授業時間外学習にかかわる情報

各回の講義においてレポートを課し、その講義内容を確認するとともに、次回の講義のための事前学習を促す予定である。そのレポートを資料として、受講者で考究し講義を進める予定である。授業時間外学習として、そのレポート作成に努め、学習を深めてほしい。

成績評価方法

認知カウンセリング（10%）、学習形態ごとの学習支援（10%）、補充的な学習が必要な学習者の特定方法（10%）、学習支援を考慮した学習環境づくり（10%）についての理解、および、机間指導（30%）、つまずきへの対応（30%）についての実践力を、総合的に評価する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	学習を支える認知カウンセリングー心理学と教育の新たな接点二			ISBN	9784892420290
	著者名	市川伸一	出版社	ブレーン出版	出版年	1993

教科書・参考書に関する補足情報

毎回、講義資料を配布し、講義をすすめる予定である。

オフィスアワー

オフィスアワーは、第1回の授業で周知します。
訪問の際は、事前にメール連絡をして来室していただくと、お互いに助かります。

Eメールアドレス

naomichi@ehime-u.ac.jp

連絡先

研究室：教育学部2号館3F（322室）

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P04	子どもの問題行動の事例研究 Case Study on Problem Behavior of Children		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
信原 孝司, 小田 哲志, 遠藤 敏朗 [NOBUHARA Takashi, ODA tetsushi, ENDO Toshiro]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（生徒指導）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

-

授業のキーワード

事例研究（Case Study）、問題行動（Problem Behavior）、子ども（Children）、カウンセリング（Counseling）

授業の目的

子どもの問題行動への理論的・実践的アプローチへの理解を深め、教育現場での問題行動への対応実践力を培う。

授業の到達目標

- (1)子どもの問題行動の背景を理解し、個別対応的な実践力を習得している。
- (2)学校現場の実情に即して子どもの問題行動を理解し、研究的アプローチを進めることができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 自らの個性や適性を活かして行動できる
 他者を理解し、他者のために役立つことができる

授業概要

時代の変遷とともに家庭環境や地域環境は変化し、子どもの問題行動の深刻化が指摘されている。本授業では、事例研究の手法を通して、子どもへの個別対応の意義を考え、子どもの問題行動への理解を深め、個別対応的な実践力の習得を試みる。事例研究の対象とする具体的問題行動は、いじめ、不登校、非行等である。カウンセリング対応力の涵養とともに、生徒指導、進路指導、教育相談等におけるアセスメントや教育指導・援助の方法等に関する知識・技能の習得を目指したい。

授業スケジュール

- 第1回：オリエンテーション Orientation
- 第2回：事例研究の意義と専門性 Significance and expertise of case studies
- 第3回：不登校事例から問題行動を考える Thinking about problem behavior from Non-attendance at School
- 第4回：事例対応基礎演習1：小学校のケース Basic practice of case study 1：primary school
- 第5回：事例対応基礎演習2：中学校のケース Basic practice of case study 2：middle school
- 第6回：学校現場から問題行動を考える：小学校のケース Thinking about problem behavior from school site：primary school
- 第7回：学校現場から問題行動を考える：中学校のケース Thinking about problem behavior from school site：middle school
- 第8回：相談機関から問題を考える1 Thinking about a problem from a consultation agency 1
- 第9回：相談機関から問題を考える2 Thinking about a problem from a consultation agency 2
- 第10回：事例対応応用演習 Advanced practice of case study
- 第11回：個別事例から考える1 いじめ問題 Thinking from individual case 1：Bullying problem
- 第12回：個別事例から考える2 不登校問題 Thinking from individual case 2：Non-attendance at School
- 第13回：個別事例から考える3 非行問題 Thinking from individual case 3：Delinquency problem
- 第14回：個別事例から考える4 保護者対応 Thinking from individual case 4：Parental support
- 第15回：講義のまとめ（振り返り） Summary of lecture

授業時間外学習にかかわる情報

その時々授業内容に合わせて予習復習を行うこと。

成績評価方法

- ・ 授業での取り組み状況、レポートなどにより総合的に評価する。
- ・ 開講時間数の3分の2以上出席しなければ成績を評価しない。

受講条件

-

受講のルール

-

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	教師教育講座 第11巻 教育相談			ISBN	978-4319106806
	著者名	石田 弓 編著	出版社	協同出版	出版年	2014
参考書2	書名	カウンセリングの実際問題			ISBN	978-4414401196
	著者名	河合隼雄	出版社	誠信書房	出版年	1970

教科書・参考書に関する補足情報

資料を必要に応じて配布する。

オフィスアワー

金曜日の4時限目（信原）

Eメールアドレス

nobuhara@ehime-u.ac.jp

oda.tetsushi.yv@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部附属教育実践総合センター（信原）

参照ホームページ

<http://www.edc.ehime-u.ac.jp/index.html>

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P05	子どもの発達と感情 Development and Emotion of Children		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
橋本 巖 [HASHIMOTO Iwao]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（生徒指導）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

Children's development and emotion

授業のキーワード

情緒発達(emotional development), 共感性(empathy), 感情制御(emotion regulation), 社会的発達(social development)

授業の目的

子どもの情緒発達や社会性の発達心理について生涯発達の視点から学ぶとともに、これらに影響する社会的関係（家族、仲間、教師）や、社会的自立、自己概念・アイデンティティの形成などとの関わりをとりあげ、学齢期における情緒発達の課題と教育・支援を考える。

授業の到達目標

- (1) 感情・社会性発達の乳幼児、児童、青年それぞれについて課題を理解する。
- (2) 感情・社会性発達と、発達他領域(自己意識、認知、言語)の関連性を例を挙げて説明できる。
- (3) 子どもや青年の生活文脈の中で感情をできるだけ具体的に考え、各自の経験を対話的に共有することを通して情緒発達についての理解を深める。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 他者を理解し、他者のために役立つことができる

授業概要

子どもの情緒発達・社会性の発達心理について生涯発達の視点から学ぶとともに、学校における課題と教育実践・支援について考える。適応範囲の者が誰でも経験する定型的な感情発達を主軸とするが、そこには各発達段階（特に児童期・青年期）の課題や非定型的なライフイベントとの関連で、ストレスや対象喪失など、ネガティブな感情経験とその制御も含まれる。主要なテーマとしては、人生早期からの情緒的レパートリーの拡大、自己意識的感情、愛着、共感性と思いやり（援助）、生命尊重の態度、感動経験、興味形成と動機づけ、自尊感情、感情表出とその自己制御、レジリエンスなど。これらの側面に影響する社会的関係（家族、仲間、教師）や、社会的自立、自己概念・アイデンティティの形成などとの関わりをとりあげ、教育・支援を考える。講義と文献学習による発表を組み合わせる。受講者の関心に応じて、感情コンピテンシーの教育やいのちの教育についても触れる。

授業スケジュール

第1回：導入：情緒・社会性の生涯発達と発達課題：学校教育のかかわり
 Introduction: Social-emotional development and developmental tasks, in relation with school education

第2回：発達と感情を考える4つの視点(感情コンピテンシーとの関連)：
 (1) 基本的感情と適応的機能、(2) 共感と思いやり、
 (3) 感情と表出の自己調整 (4) 自己概念と思いやり
 Four viewpoints for studying relationships between development and emotions:

1. basic emotions and its "adaptive" functions
2. empathy-related emotions and prosocial behavior.
3. self-regulation of emotion as important skills
4. autobiographical memories of emotional episodes and self-concept.

第3回：人生早期の感情と社会性：乳幼児の生得的な能力、愛着と前言語発達
Emotions in infants and young children. : Human's innate social competence, emergence of attachment, and pre-verbal communication.

第4回：愛着の生涯発達と、児童虐待
Life-span development of attachment and child abuse

第5回：幼児期の自己形成と社会性：
第一次反抗期／仲間関係に見る自己制御と感情制御／感謝・謝罪等の自己意識的・道徳的感情
the first period of negativism in young children / development of self-regulation and helping childrens' emotional regulation / self-conscious (moral)emotions, ex. gratitude, guilt, apology

第6回：想像力、遊びの発達、興味・関心の発達
Development of sustained interest and imagination through play experience in young children/ flow experience

第7回：学校への移行：児童期・青年期の認知発達、自覚的な学びと教育
Transition to school: Cognitive development and school education during middle-childhood through adolescence / acquisition of literacy / achievement in school / development of meta-cognition through interaction/ motivation of learning for children.

第8回：体験活動からの学びと意欲 感動経験、
Learning and motivation through personal experience in planned educational activities, in relation with experience of being emotionally moved, and self-efficacy.

第9回：共感性と思いやりの発達
Development of empathy and prosocial behavior

第10回：いのちへの関心・畏敬・生命尊重の発達と教育について(感情の関連)
Development of concept and attitude toward life and death through private experience and/or school education

第11回：学級の間関係：仲間、教師との感情表出、コミュニケーション
Relationships in classroom: Childrens' communication of emotion or disclosure with classmates and teachers.

第12回：思春期・青年期の自己発達：心理的離乳、第二次反抗期、アイデンティティ、重要な他者との関係（親子、友人）
Self development during adolescence: psychological weaning, conflict between parent and children, identity development, role of important others

第13回：青年期の仲間関係、恋愛関係と性的発達、孤独感・不安感
Experience of romantic love/ sexual(gender) development in adolescence

第14回：ストレス対処と自己調整、レジリエンス、またはストレス体験からの発達
Stress-coping or self-management, resilience, post traumatic growth

第15回 全体のおまとめ：感情発達における学校の役割
Final review and discussion about role of school in the development of emotion .

授業時間外学習にかかわる情報

以下のような時間外学習の機会を予定しています：（１）授業に対する感想やディスカッションされた事項についての省察（小レポートまたはメール形式で提出）（２）文献資料の検討に基づく発表の準備。

成績評価方法

毎回の授業への参加（ディスカッション、発表への感想・コメント記入）：30%、発表の際の調査の質とプレゼンテーション：50%、最終レポート：20%

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	よくわかる情動発達			ISBN	9784623063444
	著者名	遠藤利彦他（編著）	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	

参考書2	書名	感情心理学・入門			ISBN	9784641123885
	著者名	大平英樹(編)	出版社	有斐閣	出版年	

参考書3	書名	アタッチメント-生涯にわたる絆			ISBN	9784623041077
	著者名	数井みゆき・遠藤利彦 (編著)	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	

参考書4	書名	自己意識的感情の心理学			ISBN	9784762826931
	著者名	有光興記・菊池章夫(編 著)	出版社	北大路書房	出版年	

参考書5	書名	思いやりはどこから来るの?: 利他性の心理と行動			ISBN	9784414311112
	著者名	日本心理学会、高木 修、竹村和久	出版社	誠信書房	出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

特に指定せず、教員が適宜資料配付し、文献検索を指導する。

オフィスアワー

前期 月曜17:00-18:00 （個別的相談は、メール等で連絡くだされば、日程調整できます）。

Eメールアドレス

hashimoto.iwao.me@ehime-u.ac.jp

連絡先

橋本巖：教育学部 1号館3階 311号室

参照ホームページ

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	12P06	特別支援教育の理論と実践 Theory and Practice for Special Needs Education		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
櫻木 暢子 [KASHIKI Nagako]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（生徒指導）	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

特別支援教育の理論と実践（Theory and Practice for Special Needs Education）

授業のキーワード

特別な教育的ニーズ（Special Educational Needs）、合理的配慮（Reasonable accomodiation）、個別の教育支援計画（Incidualized Education Plan）、個別の指導計画（Individualized Instruction Plan）

授業の目的

インクルーシブ教育システム構築に向け、特別な教育的ニーズのある児童生徒への理解を深め、学校における合理的配慮を検討できることを目指す。

In order to build an inclusive education system, we aim to deepen the understanding of students with special educational needs and to consider rational consideration at school.

授業の到達目標

【特別支援教育の事例分析ができる】

- ①各障害について理解し、障害の概要、支援方法について説明できる。
- ②特別支援教育、インクルーシブ教育の動向を理解し、概説することができる。
- ③通常の学級等に在籍する特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒に対して、具体的な支援方法を検討できる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 目的達成のために多様な人と協働できる
 自らの個性や適性を活かして行動できる
 他者を理解し、他者のために役立つことができる

授業概要

本講義では、特別支援教育の動向、各障害に関する基礎的理解、障害のある人のキャリア発達と社会的自立に向けての支援について講義を行う。学習方法として、理解を深めるためのグループワークを積極的に活用する。また、実践的指導力の育成を視野に入れ、通常の学級等に在籍する特別な教育的ニーズのある幼児・児童・生徒への対応を理解し、具体的な支援方法を含む学習指導案を作成、模擬授業・指導を行い、支援方法を検討する。さらに、特別支援教育における健康教育として、重症児の健康課題、医療的ケアについて概説し、実技演習により理解を深める。

授業スケジュール

- 第1回：オリエンテーション、特別支援教育の動向、インクルーシブ教育システムの構築
- 第2回：キャリア発達と社会的自立、個別の教育支援計画と個別の指導計画
- 第3回：知的障害の理解
- 第4回：聴覚障害、言語障害の理解
- 第5回：視覚障害の理解
- 第6回：肢体不自由、病弱の理解
- 第7回：発達障害の理解①
- 第8回：発達障害の理解②
- 第9回：知的障害特別支援学校の見学
- 第10回：肢体不自由特別支援学校の見学
- 第11回：気になる子どもへの支援1（小学校低学年）
- 第12回：気になる子どもへの支援2（小学校高学年）

- 第13回：気になる子どもへの支援3（中学校）
 第14回：気になる子どもへの支援4（高等学校）
 第15回：特別支援教育における健康教育

*見学先の都合により、授業内容が前後することがあります。

- 1.Trend of special support education
- 2.Individual educational support plan
- 3.Intellectual disability
- 4.Hearing impairment
- 5.Visual impairment
- 6.Motor dysfunction, Illness
- 7.ADHD, AS
- 8.LD
- 9.Special support school tour1
- 10.Special support school tour2
- 11.Individual support: Case report of Elementary school lower grades
- 12.Individual support: Case report of Elementary school higher grades
- 13.Individual support: Case report of middle school
- 14.Individual support: Case report of high school
- 15.Health education

授業時間外学習にかかわる情報

- ①各障害の概要と合理的配慮に関するミニレポート作成
- ②実習校の事例に関する学習指導に関するレポート作成
- ③特別支援学校の見学

成績評価方法

レポート70%、討議・報告・授業への取り組み30%

受講条件

受講のルール

課題提示やレポート提出などはメールを用いますので、就学支援システムからのメールが受け取れるようにしておいてください。

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	特別支援教育ハンドブック			ISBN	
	著者名	飯野順子、岡田加奈子、玉川進編著	出版社	東山書房	出版年	2014
教科書2	書名	特別支援学校学習指導要領			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	
教科書3	書名	特別支援学校学習指導要領解説総則編			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	
教科書4	書名	特別支援学校学習指導要領解説自立活動編			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	特別支援教育充実のためのキャリア教育ガイドブック			ISBN	9784863711471
	著者名		出版社	ジアース教育新社	出版年	2011

		国立特別支援教育総合 研究所編著				
参考書2	書名	通常学級での特別支援教育のスタンダード			ISBN	9784487804900
	著者名	東京日野市公立小中学 校全教師・教育委員会 with小貫悟	出版社	東京書籍	出版年	2010
参考書3	書名	新しい障がい理解教育の創造			ISBN	9784571121142
	著者名	富永光昭	出版社	福村出版	出版年	2011
参考書4	書名	すべての教員のためのインクルーシブ教育システム構築研修 ガイド			ISBN	9784863712492
	著者名	国立特別支援教育総合 研究所	出版社	ジアース教育新社	出版年	
参考書5	書名	共に学び合うインクルーシブ教育システムに向けた児童生徒 への配慮・指導事例			ISBN	9784863712508
	著者名	国立特別支援教育総合 研究所	出版社	ジアース教育新社	出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

教科書は前半の障害理解で使用する。参考書は学習指導案作成時に参考となる文献を提示した。

オフィスアワー

金曜3限（12：40～14：10）

Friday 12:40~14:10

Eメールアドレス

kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp

連絡先

研究室：教育学部4号館2階（オフィスアワー以外に訪問する場合は、必ず予約を取ること。）
089-927-9521（直通）

参照ホームページ

その他

特別支援教育を学ぶことで、児童生徒理解や授業づくり、学級経営に対する意識が変わることを期待しています。

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P07	生徒指導・進路指導の実践研究 Practical Study for Student Counseling and Career Guidance		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
信原 孝司, 城戸 茂 [NOBUHARA Takashi, KIDO Shigeru]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（生徒指導）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

生徒指導・進路指導の実践研究[Practical Study for Student Counseling and Career Guidance]

授業のキーワード

生徒指導（Student Guidance）, 教育相談（Educational Counseling）, 進路指導（Career Guidance）, キャリア教育（Career Education）

授業の目的

生徒指導及び進路指導の現状と課題を把握し、今後の更なる充実に向け、教員又は管理職として重点的に取り組むべきことについて理解を深め、実践に向けての意欲をもつ。

授業の到達目標

以下の2点を到達目標として設定する。

- 生徒指導・進路指導の現状と課題について理解している。
- 生徒指導・進路指導に当たる教員への指導・助言の観点を示すことができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 目的達成のために多様な人と協働できる
 社会的関係の中で自分の行動を調整できる
 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

授業概要

本講座は、学校経営の重要な柱の一つである生徒指導・進路指導について、学校経営的な観点から考えていこうとする資質や能力の育成を目指すものである。講座では、生徒指導・進路指導の現状から取り組むべき課題を考察し、その改善に向け、関係機関や専門家等との連携を図りながら学校全体で組織的に取り組んでいくための方策について具体的事例や現地視察を織り交ぜながら検討していくことを中心に構成している。講座のまとめの段階では、ミドルリーダー及び管理職の観点に立った生徒指導・進路指導の充実のための実践課題を明らかにしたい。

授業スケジュール

- 第1回：オリエンテーション・児童生徒の問題行動の現状と生徒指導の機能（講義・演習）
- 第2回：不登校問題の理解と対応（講義・演習）
- 第3回：いじめ問題の理解と対応（講義・演習）
- 第4回：非行・反社会的行動の理解と対応（講義・演習）
- 第5回：組織的対応とスクールカウンセラーとの協働（講義・演習）
- 第6回：事例研究から生徒指導・進路指導を考える1（講義）
- 第7回：事例研究から生徒指導・進路指導を考える2（演習）
- 第8回：心理臨床の視点から生徒指導・進路指導を考える（講義・演習）
- 第9回：生徒指導体制と生徒指導に関する法制度（講義・演習）
- 第10回：発達の段階に応じた進路指導・キャリア教育（講義・演習）
- 第11回：学校と関係機関等との連携について（講義）
- 第12回：児童自立支援施設の意義と役割（講義）

- 第13回：児童自立支援施設における生徒指導・学習指導（演習）
第14回：児童自立支援施設における生き方指導（演習）
第15回：講座のまとめ～生徒指導・進路指導と学校経営～（演習）

授業時間外学習にかかわる情報

授業中の指示を踏まえ、小レポートを作成する。

成績評価方法

次の面から評価を行う。
・事前課題の遂行状況・演習・協議への参加状況
・授業内課題の遂行状況・最終レポートの内容

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	生徒指導提要			ISBN	9784877302740
	著者名	文部科学省	出版社	教育図書	出版年	

教科書2	書名	教師教育講座第11巻「教育相談」			ISBN	
	著者名	石田弓編著	出版社	協同出版	出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	教師教育講座第10巻「生徒指導・進路指導論」			ISBN	9784319106790
	著者名	森田愛子編著	出版社	協同出版	出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

配布資料

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

kido.shigeru.kz@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部1号館 2階 211

参照ホームページ

その他

開講年度	開講 学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナン バリング	時間 割番号	科目名[英文名]		
	22P14	子ども理解の心理アプローチ（調査法） Psychological Approach for Children's Understanding (quantitative and qualitative research method)		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
橋本 巖, 信原 孝司, 榎木 暢子 [HASHIMOTO Iwao, NOBUHARA Takashi, KASHIKI Nagako]				2
授業科目区分	教職大学院基礎科目（生徒指導）	対象学生	対象年次	1～1

授業題目

Psychological Approach for Understanding Children

授業のキーワード

児童・生徒理解(understanding children and adolescents in educational practice), 心理学的研究方法(psychological research method), 教師-子ども関係(relationships between teacher and children), 心理的アセスメント(psychological assessment)

授業の目的

本授業は、学校教育における「教師による子ども理解」のしくみと働きを理解し、子ども理解に取り組む実践的・省察的態度の基礎を修得するとともに、面接法、質問紙法、観察法といった心理学的研究方法を体験学習することにより、理解のための実践的調査方法に関する素養を身につけることを目指す。

授業の到達目標

1. 教師による子ども理解の重要性と、理解の過程で陥りやすい問題を知り、省察的に幼児・児童・生徒理解に取り組む上で重要な条件を説明できる。
2. 発達する子どもの心理を理解するために有用な理論や概念を活用できる。
3. 観察、面接、質問紙などの子ども理解のための実践的調査方法の基本を習得し、倫理的配慮のもと、適切に用いることができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

必要な情報を収集・整理できる
 個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 他者を理解し、他者のために役立つことができる

授業概要

本授業は、学校教育における「教師による子ども理解」のしくみと働きを理解し、実践的・省察的態度のもとで子ども理解に取り組む基礎を修得することを目指す。まず、子どもへの理解を歪めるステレオタイプ等の影響とそれに気づく省察や共感的理解の役割を学び、発達する子どもの心理や行動の内面を見立てる上で有効な理論・人間観にふれる。また学校のどのような場面でも活用される観察、面接、簡便な質問紙などの心理学的調査の方法を実習し、教育現場でそれらの調査方法を的確に実施して実践に活かすためにどのように用いるか、考察する。

授業スケジュール

- 第1回（1）教師による子ども理解：実践上の重要性と方法の多様性
 （2）人をわかっていく心理的しくみ：ステレオタイプと共感的理解
- （1）Understanding children by teachers: Its importance for education and variety of psychological methods.

(2) Psychological mechanism of understanding other person(s):
social stereotypes and empathic understanding.

第2回 子どもの「内面」を見立てる：心理的発達と課題・問題の関係をさぐる：
【講話】話を「きく」ことについて、【演習】事例の違いから傾聴を考える

Psychological understanding the "psychological inside" of children :
Finding out the relationship of psychological development and issues

第3回 理解のための面接法（1） 方法の特徴と留意点（倫理的配慮）：
【講話】日常の相談と専門的相談について、【演習】紙上応答訓練 1

Interview method (1): Methodological features
and points to keep in mind (Ethical consideration)

第4回 理解のための面接法（2）【演習】：対話の流れの中での質問、傾聴と「わかる」こと：
【講話】傾聴のヒントについて 【演習】紙上応答訓練 2

Interview method (2)
Exercise : Question in dialogue, listening and 'understanding'

第5回 理解のための面接法（3）【演習】教育相談場面を意識したロールプレイ 1

Interview method (3)
Exercise : Role play - educational consultation scene 1

第6回 理解のための面接法(4) 【演習】教育相談場面を意識したロールプレイ 2 【レポート課題】

interview method (4)
Exercise : Role play - educational consultation scene 2

第7回 理解のための質問紙法（1）方法の特徴と長所・短所、及び倫理的配慮について

Questionnaire method(1): Methodological features, advantage
and disadvantage, ethical consideration

第8回 理解のための質問紙法（2）【演習】質問紙の作成① 調査テーマの決定と質問紙の設計

Questionnaire method(2) Exercise :Developing a new questionnaire 1
determination of psychological construct to be measured, target
population and research questions.

第9回 理解のための質問紙法（3）【演習】質問紙の作成② 項目の収集と精選

Questionnaire method(3) Exercise: Developing a new questionnaire 2
listing possible scale items, determining response format,
administrating preliminary survey, and item analysis.

第10回 理解のための質問紙法（4）【演習】質問紙調査の実施と「データ」の整理方法

Questionnaire method(4) Exercise: Conducting planned survey,
preparing for data entering

第11回 理解のための質問紙法（5）【演習】データの分析法（簡単な統計的分析）, 図表の作成
調査レポートへのまとめ方

Questionnaire method(5) Exercise: Data analysis using fundamental
statistical methods, tables and figures, and writing a research report.

第12回 理解のための観察法（1）方法の特徴と留意点 観察のポイントと記述
【演習】：自然観察法 課題提示

Observation method(1) Methodological features, caution points,
observation perspectives, records,
Exercise: Uncontrolled observation method

第13回 理解のための観察法（2）実験的観察法 【演習】時間観察法

Observation method(2) Experimental observation method
Exercise: Time observation method

第14回 理解のための観察法（3）参加観察法 【演習】：記録シートの作成と結果の処理

Observation method(3) Participating observation method
Exercise: How to write episode records, create recording sheets,
result processing

第15回 理解のための観察法（4）観察法実施上の留意点、実践的理解とまとめ
【演習】観察時の留意点、結果の精度に関わる要因分析

Observation method(4) Points of practice, practical
understanding, summary
Exercise: Observation and discussion

授業時間外学習にかかわる情報

受講者各自が、指定・紹介された文献を授業前に読解すること、発表やグループワークの目的に応じて情報収集して整理するとともに、グループワークの場合は協議するための時間を授業時間外にとることが求められる。質問紙調査においては、作成、調査実施、分析の作業を、分担・協同して授業時間外に進めてもらうことになる。

成績評価方法

授業を担当する各教員が、以下の1, 2の観点に基づいて100点満点で評価し、その平均を最終成績とする。

1. 基本概念に関するレポートと、まとめの実習に関するレポートの論述 (60%)
2. 演習への参加やディスカッションでの貢献 (40%)

受講条件

受講のルール

- ・グループワークをする機会が多いので、無断欠席をしないこと。
- ・教職大学院外の方々に調査・研究に協力していただく可能性があるため、倫理的配慮について具体的に理解すること。

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	生徒指導提要			ISBN	9784877302740
	著者名	文部科学省	出版社		出版年	2010

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	臨床心理学・理論と実践④ 学童期の支援—特別支援教育をふまえて			ISBN	9784623059300
	著者名	長崎勤・藤野博(編著)	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	

参考書2	書名	カウンセリングの実際問題			ISBN	4414401194
	著者名	河合隼雄	出版社	誠信書房	出版年	

参考書3	書名	心理学基礎演習 Vol.2 質問紙調査の手順			ISBN	9784779502002
	著者名	小塩真司・西口利文(編)	出版社	ナカニシヤ出版	出版年	2007

参考書4	書名	心理調査の基礎—心理学方法論を社会で活用するために			ISBN	9784641174283
	著者名	(監修)日本心理学会(編) サトウタツヤ・鈴木直人	出版社	有斐閣	出版年	2017

参考書5	書名	心理学マニュアル 面接法			ISBN	4762821705
	著者名	保坂亨・中澤潤・大野木裕明(編著)	出版社	北大路書房	出版年	2000

参考書6	書名	心理学マニュアル 観察法			ISBN	4762820768
	著者名	中澤潤・大野木裕明・南博文(編著)	出版社	北大路書房	出版年	1997

参考書7	書名	心理学マニュアル 質問紙法			ISBN	4762821098
------	----	-------------------------------	--	--	------	------------

	著者名	鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤(編著)	出版社	北大路書房	出版年	1998
参考書8	書名	改訂新版 心理学論文の書き方 ―卒業論文や修士論文を書くために		ISBN	9784309245225	
	著者名	松井 豊	出版社	河出書房新社	出版年	2010
参考書9	書名	心理学・倫理ガイドブック ―リサーチと臨床		ISBN	4641076375	
	著者名	日本発達心理学会(監修) 古澤頼雄・斉藤こずゑ・都築学(編著)	出版社	有斐閣	出版年	2000
参考書10	書名	科学の健全な発展のために―誠実な科学者の心得―		ISBN	9784621089149	
	著者名	日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会(編)	出版社	丸善出版	出版年	2015

教科書・参考書に関する補足情報

実践場面での児童生徒理解の一般的事項については「生徒指導提要」を基本書として参照するが、適宜担当者からその授業回のテーマに即した資料プリント等を配布する。参考書に挙げたものは一例であるが、レポート・論文の書き方、データ分析に関わる統計的手法の解説書などは分かりやすいと思うものを各自入手して欲しい。

オフィスアワー

複数の教員が担当するため、開講時(第1回目)に、それぞれのオフィスアワー等のスケジュールを連絡する。

Eメールアドレス

hashimoto.iwao.me@ehime-u.ac.jp

連絡先

橋本巖：教育学部 1号館3階 311号室 hashimoto.iwao.me@ehime-u.ac.jp
 信原孝司：教育学部附属教育実践総合センター(持田地区) nobuhara@ehime-u.ac.jp
 榎木暢子：教育学部4号館2階 204号室 kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P08	学級経営の理論と実践 Theory and Practice for Class Management		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
太田 佳光, 城戸 茂, 遠藤 敏朗 [OTA Yoshimitsu, KIDO Shigeru, ENDO Toshiro]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（学級経営）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

学級経営の理論と実践（Theory and Practice for Class Management）

授業のキーワード

特別活動(Extra-Curricular Activities),学級経営(Class Management)

授業の目的

学級経営は、児童・生徒の人格形成を行う教育活動にとって、非常に重要な位置を占めている。受講生は、本講義の受講を通して、その学級経営の理論的・実践的方法論について、深く理解をし、実践に生かすことが出来る。

授業の到達目標

- ①学級経営の基礎的理論について理解し、学級経営の重要性について説明ができる。
- ②学級経営の具体的な手法について理解し、望ましい学級経営案の作成を行う事ができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

必要な情報を収集・整理できる
 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

現代の教育課題への対応などをふまえ、望ましい学級経営のあり方とその方法論について、特別活動や学級づくりの視点から検討する。まず学級経営の理論的背景として、準拠集団論・リーダーシップ論などについての理解を深め、学級経営の基本的な視座を獲得する。その上で、具体的な学級経営の方法について、実践事例を中心とした検討と具体的な学級経営案の作成を行い、望ましい学級経営のあり方についての実践的指導力を育成する。

授業スケジュール

- 第1回：学級経営の今日的課題（担当：太田佳光・城戸茂）
- 第2回：学級経営の理論（1）：準拠集団論を中心に（担当：太田佳光）
- 第3回：学級経営の理論（2）：リーダーシップ論を中心に（担当：太田佳光）
- 第4回：学級経営と特別活動・学級づくり（担当：太田佳光）
- 第5回：学級経営の事例分析（1）：小学校低学年（担当：太田佳光）
- 第6回：学級経営の事例分析（2）：小学校中学年（担当：太田佳光）
- 第7回：学級経営の事例分析（3）：小学校高学年（担当：太田佳光）
- 第8回：学級経営の事例分析（4）：中学校（担当：太田佳光）
- 第9回：学級経営案の作成（1）：学級経営案の概要（担当：城戸茂）
- 第10回：学級経営案の作成（2）：作成上の留意点と作成作業（担当：城戸茂）
- 第11回：学級経営案の作成（3）：学級経営案の発表と検討（担当：城戸茂）
- 第12回：学級経営案の作成（4）：学級経営案の発表と検討（担当：城戸茂）
- 第13回：学級経営案の作成（5）：学級経営案の発表と検討（担当：城戸茂）

- 第14回：学級経営案の作成と実践への課題：（担当：城戸茂）
- 第15回：授業の総括と課題の確認（担当：太田佳光・城戸茂）

授業時間外学習にかかわる情報

授業受講前に資料を精読する必要がある。また、学級経営案の作成が必要な時もある。具体的には、授業時に指示する。

成績評価方法

討議・報告・授業への取組（50%）、レポート（50%）

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	小学校学習指導要領解説特別活動編、中学校学習指導要領解説特別活動編			ISBN	-
	著者名	-	出版社	-	出版年	-

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	新しい特別活動論第2版			ISBN	9784623059966
	著者名	高旗正人・倉田侃司編	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	2011

教科書・参考書に関する補足情報

オフィスアワー

木曜16：30～17：30

Eメールアドレス

ota.yoshimitsu.my@ehime-u.ac.jp

連絡先

附属教育実践総合センター（913-7863）

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P09	学校組織のリーダーシップ Leadership in School Organizations		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
露口 健司 [TSUYUGUCHI Kenji]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（学級経営）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

学校管理職のためのリーダーシップ論（Leadership Theory for School Administrators）

授業のキーワード

教育的リーダーシップ（Instructional Leadership）、変革的リーダーシップ（Transformational Leadership）、サーバントリーダーシップ（Servant Leadership）、リーダーシップ開発（Leadership Development）

授業の目的

スクールリーダーとして、あるべきリーダーシップモデルを、理論と持論との対話を通して構築する。
You build a desirable leadership model as a school leader through dialogue between academic theory and practical theory.

授業の到達目標

- 現職教員：校区レベルで人々を動かすために、自校の問題を洗い出し、問題解決のためのリーダーシップ実践を提案することができる。
- 学部卒業生等：学級の子どもや保護者を動かすために、学級の問題を洗い出し、問題解決のためのリーダーシップ実践を提案することができる。
- In-service teacher: In order to move people at school district level, we can identify problems of ourselves and propose leadership practice for problem solving.
- Undergraduate Graduates etc: In order to move children and guardians in the classroom, we can identify problems of the class and propose leadership practice for problem solving.

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

スクールリーダーとして必要なリーダーシップの思考と技法について、①目標で動かす、②戦略に巻き込む、③評価データで動かすという3つの視点から、理論的な知識を学ぶとともに、グランドデザイン・校務分掌表・学校評価表等についての自校の実践や実践事例を対象とするケース・スタディを行うことで、人々を動かすための実践知を形成する。さらに、後半では学校評価実務のノウハウについても学び、評価データで人々を動かすための具体的技法を習得する。

授業スケジュール

- 第1回 危機意識の共有化をいかにして図るか（講義） how to share common sense of crisis (Lecture)
- 第2回 危機意識の共有化をいかにして図るか（演習） how to share common sense of crisis (Seminar)
- 第3回 ビジョンと組織文化の変革（講義） Transformation of vision and organizational culture (Lecture)
- 第4回 ビジョンと組織文化の変革（演習） Transformation of vision and organizational culture (Seminar)
- 第5回 目標管理に適した公正型リーダーシップ（講義） Fairness leadership for management by objection (Lecture)
- 第6回 目標管理に適した公正型リーダーシップ（演習） Fairness leadership for management by objection (Seminar)
- 第7回 チームワークを高めるリーダーシップ（講義） Leadership for building teamwork (Lecture)
- 第8回 チームワークを高めるリーダーシップ（演習） Leadership for building teamwork (Seminar)

- 第9回 保護者との信頼構築のためのリーダーシップ（講義）Leadership for building trust with parents (Lecture)
 第10回 保護者との信頼構築のためのリーダーシップ（演習）Leadership for building trust with parents (Seminar)
 第11回 校区につながるを築くリーダーシップ（講義）Leadership for building social capital in school district (Lecture)
 第12回 校区につながるを築くリーダーシップ（演習）Leadership for building social capital in school district (Seminar)
 第13回 コミュニティ・スクール制度を活用した地域活性化(講義)Community revitalization by utilizing community school system (Lecture)
 第14回 コミュニティ・スクール制度を活用した地域活性化(演習)Community revitalization by utilizing community school system (Seminar)
 第15回 全体のまとめ Summary and refrection

授業時間外学習にかかわる情報

事前配付資料の予習

成績評価方法

事前課題の遂行状況，演習・協議への参加状況，授業内課題の遂行状況，最終レポートを考慮して総合的に判断する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「-」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	学力向上と信頼構築			ISBN	9784324099520
	著者名	露口健司	出版社	ぎょうせい	出版年	2015

参考書2	書名	校長職の新たな実務課題			ISBN	9784873805832
	著者名	露口健司	出版社	教育開発研究所	出版年	2012

参考書3	書名	学校組織の信頼			ISBN	9784864291682
	著者名	露口健司	出版社	大学教育出版	出版年	2012

参考書4	書名	スクールリーダーシップ			ISBN	9784762020995
	著者名	小島弘道・淵上克義・ 露口健司	出版社	学文社	出版年	2011

参考書5	書名	学校改善マネジメント			ISBN	9784623062614
	著者名	篠原清昭	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	2012

参考書6	書名	ソーシャル・キャピタルと教育			ISBN	978-4623077700
	著者名	露口健司	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	2016

--	--	--	--	--	--	--

参考書7	書名	つながりを深め子どもの成長を促す教育学		ISBN	978-4623077908
	著者名	露口健司	出版社	ミネルヴァ書房	出版年

教科書・参考書に関する補足情報

「-」

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

tsuyuguchi.kenji.mg@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部本館2階

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	22P15	データを活用した学校経営（調査法） Date Driven School Leadership (quantitative and qualitative research method)		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
露口 健司, 尾川 満宏, 本田 哲也 [TSUYUGUCHI Kenji, OGAWA Mitsuhiro, HONDA Tetsuya]				2
授業科目区分	教職大学院基礎科目（学級経営）	対象学生	対象年次	1～1

授業題目

データを活用したリーダーシップ実践の基礎技術（Basic Skills for Data Driven School Leadership）

授業のキーワード

学校評価（School Evaluation）, 学校データ分析（School Data Analysis）, 実践研究（Practical Research）

授業の目的

スクールリーダーにとって必要不可欠である、学校経営において質的・量的データを活用する知識・技能の基礎を習得する。

You will learn the basics of knowledge and skills to utilize qualitative and quantitative data in school management.

授業の到達目標

(1)データを活用した学校経営の意義と基礎理論を理解することができる。
(2)学校で生成されるデータ（学力データ・学校評価関連データ等）、勤務校において生成したデータから有益な知見を得るためのデータベース作成とデータ分析の操作を行うことができる。
(3)データ分析結果のまとめとそれに基づくプレゼンテーションを勤務校において行うことができる。

(1) You can understand the significance of school management using data and basic theory.
(2) It is possible to perform database creation and data analysis operations to obtain useful information from data generated at school (academic ability data, school evaluation related data, etc.) and data generated at work school.
(3) It is possible to summarize the data analysis result and presentation based on it in the work school.

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

データを活用した学校経営を実践するためには、質的・量的データの収集・生成・管理方法、分析方法等の理解が必要である。本科目では、前半に質的データ、後半に量的データを対象として、学校経営へのデータの生かし方について学ぶ。

授業スケジュール

第1回 学校における質的・量的データの重要性
第2回 インタビュー
第3回 エスノグラフィーと観察
第4回 フォーカスグループ
第5回 ビジュアルデータの活用
第6回 会話分析・ディスコース分析・ドキュメント分析

- 第 7回 学校のテキストデータ分析と学校改善への示唆
- 第 8回 Googleフォームを活用した質問紙作成と回答集計
- 第 9回 Excelを活用したデータベース作成
- 第10回 Excel編 統計の基礎知識
- 第11回 Excel編 グラフ作成
- 第12回 SPSS編 記述統計
- 第13回 SPSS編 相違を見る
- 第14回 SPSS編 相関を見る
- 第15回 学校の数量データ分析と学校改善への示唆

- 1.Importance of qualitative and quantitative data at school
- 2.Interview
- 3.Ethnography and observation
- 4.Focus group
- 5.Utilizing visual data
- 6.Conversation analysis · Discourse analysis · Document analysis
- 7.Suggestion for school text data analysis and school improvement
- 8.Creating questionnaires using Google Form and totalizing responses
- 9.Creating a database using Excel
- 10.Basic knowledge of Excel editing statistics
- 11.Excel editing chart creation
- 12.SPSS descriptive statistics
- 13.SPSS compilation divergence
- 14.SPSS Correlation
- 15.Analysis of quantity data of schools and suggestions for school improvement

授業時間外学習にかかわる情報

事前配付資料の予習。

成績評価方法

事前課題の遂行状況、演習・協議への参加状況、授業内課題の遂行状況、最終レポートを考慮して総合的に判断する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	学校組織の信頼			ISBN	9784864291682
	著者名	露口健司	出版社	大学教育出版	出版年	2012

参考書2	書名	教育研究のための質的研究法講座			ISBN	
	著者名	関口靖広	出版社	北大路書房	出版年	2013

参考書3	書名	SPSSによる実践統計分析			ISBN	
	著者名	林 雄亮他	出版社	オーム社	出版年	2017

教科書・参考書に関する補足情報

「-」

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

tsuyuguchi.kenji.mg@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部本館2階

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）教育実践高度化専攻		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P13	学校改善の実践的研究 Practical study of school improvement and leadership		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
露口 健司 [TSUYUGUCHI Kenji]				1
授業科目区分	教職大学院基礎科目（学級経営）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

学校改善のためのリーダーシップ実践
(Leadership practices for school improvement)

授業のキーワード

チーム学校（school as a team）, 働き方改革（workstyle reform）, リーダーシップ実践（leadership practice）

授業の目的

これからの学校管理職には、勤務校において働き方改革、学び方改革、生き方改革の推進役として、リーダーシップを発揮することが求められている。本科目の目的は、これら三位一体改革を推進する上で必要な知識・技能を習得することである。
(For future school management positions, it is required to demonstrate leadership as a promoter of workstyle reform, learning method reform, and lifestyle reform at work schools. The purpose of this course is to acquire the necessary knowledge and skills to promote these trinity reforms.)

授業の到達目標

- 1.今日の学校で求められている教員の働き方改革, 学び方改革, 生き方改革（三位一体改革）の概要について理解する。
- 2.これらの改革を推進する上で必要なリーダーシップの基本的知識・技能を習得する。
- 3.三位一体改革に真剣に取り組み, 所属職員の幸福感を高めるリーダーとなろうとする意欲をもつ。
(1. You understand the overview of teachers' work style reform, learning method reform, and lifestyle reform required for today's school.
2. You learn the basic knowledge and skills of the leadership necessary to promote these reforms.
3. You seriously try the trinity reform and have a willingness to become a leader who increases the sense of well-being of school staff.)

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
目的達成のために多様な人と協働できる
集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

授業概要

教員の働き方改革、学び方改革、生き方改革の動向についてデータに基づいて理解するとともに、自校の改革案を提案する。また、これら三位一体改革のために必要なリーダーシップについての理解を深める。

授業スケジュール

- 第1回 データで見る教員の働き方
- 第2回 人生100年時代の教員のキャリアデザイン
- 第3回 teacherからmanager, teacherからspecialist
- 第4回 勤務校の働き方改革
- 第5回 教員の幸福感とは？
- 第6回 三位一体改革のためのリーダーシップ実践
- 第7回 三位一体改革のためのリーダーシップ実践
- 第8回 リーダーシップ持論の生成

1. Teachers work style from viewpoint of data analysis

2. Career design of faculty in 100 years of life
3. teacher to manager, teacher to specialist
4. Reform working method at work school
5. What is the sense of happiness of faculty members?
6. Leadership practice for trinity reform 1
7. Leadership practice for trinity reform 2
8. Generation of leadership opinion

授業時間外学習にかかわる情報

事前に配布する教材による予習

成績評価方法

最終レポート（50%）、授業中の作成物（40%）、学習意欲（10%）を目安として総合的に評価

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「-」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	スクールリーダーシップ			ISBN	
	著者名	小島弘道・淵上克義・ 露口健司	出版社	学文社	出版年	2010

参考書2	書名	学校改善マネジメント			ISBN	
	著者名	篠原清昭	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	2012

参考書3	書名	学力向上と信頼構築			ISBN	
	著者名	露口健司	出版社	ぎょうせい	出版年	2015

教科書・参考書に関する補足情報

「-」

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

tsuyuguchi.kenji.mg@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部本館2階

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P10	教員の成長と職業倫理 Career Development and Professional Ethics of Teachers		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
平松 義樹, 山崎 哲司, 小田 哲志, 森田 桂子 [HIRAMATSU Yoshiki, YAMASAKI Tetsuji, ODA tetsushi, MORITA Keiko]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（学校教育）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

教員の成長と職業倫理(Career Development and Professional Ethics of Teachers)

授業のキーワード

職業倫理(Professional Ethics of Teachers), 教育人間学(Pedagogical anthropology), 教師力(The qualities and capabilities as a teacher)

授業の目的

キャリア発達における資質・能力の調査・分析を通して、教員のライフステージごとに求められる資質や能力をまとめ、職業倫理についてを深める。

授業の到達目標

- ①教員のライフステージとそこで求められる資質・能力を理解することができる。
- ②質的研究法を用いて、実際にインタビューを行い、そこからの知見を抽出することができる。
- ③教員のキャリア発達と職業倫理の関連性について考察することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 社会的関係の中で自分の行動を調整できる
 地域の課題を、地球規模で考え、解決に向けて貢献できる

授業概要

本講座は、教員のキャリア発達をライフステージごとに理解し、そこで求められる資質や能力をまとめることと、職業倫理の認識の深化過程を理解することを目的としている。ややもすると管理職登用試験の試験勉強において、初めて教育実践の法的裏付けを知る教員が多い中、それを改善する知見を得ることを目的として考えている。

授業スケジュール

- 第1回：オリエンテーション・教師になるということ～教員のライフステージとその資質・能力（平松・山崎・小田・森田）
- 第2回：学校の常識が法で裁かれるときⅠ～体罰問題を考える～（平松・森田）
- 第3回：学校の常識が法で裁かれるときⅡ～体罰問題を考える～（平松・森田）
- 第4回：教員のライフステージとそこで求められる資質・能力その1（山崎・小田）
- 第5回：教員のライフステージとそこで求められる資質・能力その2（山崎・小田）
- 第6回：教員のライフステージとそこで求められる資質・能力その3（山崎・小田）
- 第7回：人間の生き方を学ぶ人間論の必要性「本物の教師とは」（講師：小野晋也氏・小田担当）
- 第8回：鈴木鎮一・角谷敏夫・松崎運之介らの生き方に学ぶ「教育とは何か？」（小田・森田）
- 第9回：吉田松陰の人生と教育思想「人はなぜ勉強するのか」（小田・森田）
- 第10回：福沢諭吉の人生と教育思想「学問のすすめ」（森田・山崎）
- 第11回：坂村真民の人生と教育思想「自分の花を咲かせるとは？」（講師：西澤孝一・森田担当）
- 第12回：森信三の人生と教育思想「全一学」（小田・森田）
- 第13回：「大学」を読む（森田・山崎）
- 第14回：幸田露伴の人生と教育思想「努力論」（小田・平松）

授業時間外学習にかかわる情報

各講義ごとの課題レポートの作成

成績評価方法

事前課題の遂行状況、演習・協議への参加状況、授業内課題の遂行状況、最終レポートを考慮して総合的に判断する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	—			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	教育研究ハンドブック			ISBN	9784790711032
	著者名	立田慶裕編	出版社	世界思想社	出版年	2005

参考書2	書名	質的心理学ハンドブック			ISBN	9784788513549
	著者名	やまだようこ編集	出版社	新曜社	出版年	2013

参考書3	書名	インタビューの社会学			ISBN	9784796702379
	著者名	桜井厚	出版社	せりか書房	出版年	2002

参考書4	書名	学校のための法学			ISBN	9784623050673
	著者名	篠原清昭	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	2008

参考書5	書名	修身教授録			ISBN	9784884741723
	著者名	森信三	出版社	致知出版社	出版年	1989

教科書・参考書に関する補足情報

「一」

オフィスアワー

小田哲志 水3時限

Eメールアドレス

oda.tetsushi.yv@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部 1号館 3階 320室

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P12	愛媛の教育改革 Educational Reform in Ehime Prefecture		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
露口 健司, 平松 義樹, 城戸 茂, 森田 桂子, 高橋 葉子 [TSUYUGUCHI Kenji, HIRAMATSU Yoshiki, KIDO Shigeru, MORITA Keiko, TAKAHASHI Yoko]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 教職大学院基礎科目（学校教育）	対象学生	対象年次	1～

授業題目

愛媛の教育改革（Educational Reform in Ehime Prefecture）

授業のキーワード

愛媛の教育（Ehime of Education）, 授業改善（Lesson Improvement）, チーム力（Ability as a Team）

授業の目的

愛媛の教育改革の動向を踏まえ、今後の教育の更なる発展に向け、教員又は管理職として重点的に取り組むべきことについて理解を深め、実践に向けての意欲をもつ。

授業の到達目標

以下の2点を到達目標として設定する。

- (1)愛媛県における教育改革の全体像、背景・文脈、具現化実態を理解することができる。
- (2)愛媛県の教育課題の改善に関する自己の研究課題をエビデンスに基づき提案することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 目的達成のために多様な人と協働できる
 社会的関係の中で自分の行動を調整できる
 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

授業概要

第1ステージでは、教育研究の方法について学習した後、愛媛県の教育の現状や課題について、県及び市町の教育行政担当者及び研究団体、管理職の講話を通して理解する。ここでは、大学教員や外部講師の講義が中心となる。第2ステージでは、実地視察を通して、教育改革の推進状況について探究を行う。ここでは、学校での実施学習が中心となる。第3ステージでは、愛媛県教育委員会が示す基本方針及び、愛媛の教育課題を踏まえ、自己の研究課題を示しその意義についてエビデンスを踏まえて説明する。ここでは、大学内での演習が中心となる。

授業スケジュール

- 第1回：ガイダンス・教育研究の進め方（講義）
- 第2回：教育研究ガイドマップ（演習）
- 第3回：愛媛県の教育実態 ―データにみる現状―（講義・演習）
- 第4回：愛媛県教育委員会が進める改革：【外部講師（愛媛県教育委員会義務教育課課長級）】
- 第5回：市町教育委員会が進める改革：【外部講師（市町教育委員会教育長級）】
- 第6回：愛媛県の教育研究団体が進める改革：【外部講師（愛媛県教育研究協議会会長）】
- 第7回：愛媛県の小・中学校が進める改革：【外部講師（愛媛県公立小・中学校長）】
- 第8回：愛媛県の高等学校が進める改革：【外部講師（愛媛県公立高等学校長）】
- 第9回：実地視察（1）確かな学力、豊かな心を育てる教育
- 第10回：実地視察（2）教職員の資質・能力の向上
- 第11回：実地視察（3）チーム学校と学校組織の活性化
- 第12回：発表（1）愛媛の教育課題（教育実践開発コース①）
- 第13回：発表（2）愛媛の教育課題（教育実践開発コース②）

第14回：発表(3) 愛媛の教育課題(リーダーシップ開発コース)
第15回：まとめ

授業時間外学習にかかわる情報

授業中の指示を踏まえ、次時の学習内容に関する事前調査を行い、小レポートを作成する。

成績評価方法

事前課題の遂行状況、演習・協議への参加状況、授業内課題の遂行状況、発表内容及び最終レポートを考慮して総合的に判断する。

受講条件

受講のルール

教科書(購入の必要のある図書)

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書(購入する必要はないが、推奨する図書)

参考書1	書名	愛媛県史			ISBN	
	著者名	愛媛県教育委員会	出版社		出版年	1974

教科書・参考書に関する補足情報

配付資料

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

kido.shigeru.kz@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部1号館 2階 211

参照ホームページ

愛媛県教育委員会ホームページ <http://ehime-c.esnet.ed.jp/>

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	22P02	教育政策の立案と評価 Educational Policy Making and Evaluation		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
村上 祐介 [MURAKAMI Yusuke]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 発展科目	対象学生	対象年次	1～

授業題目

-

授業のキーワード

教育政策、政策研究、政策立案、政策評価、因果推論

授業の目的

学校教育が円滑かつ効果的に行われるためには、学校内部の経営やリーダーシップだけでなく、それを支援する教育行政・政策の役割も重要である。教育政策を適切に立案・評価することは、学校教育を牽引するリーダーにとって必要な資質・能力であるといえる。この授業では、政策立案・評価を適切に行うための社会科学的な方法論について学び、合わせて受講者の実際のリサーチ計画を事例に検討を行う。

授業の到達目標

この授業では、教育政策の立案と評価を行う際のポイントを理解するとともに、適切な政策立案・評価を行うための方法・技術を習得することを目標とする。より具体的には、自ら政策立案・評価のための調査研究を設計できるようにする。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

必要な情報を収集・整理できる
 個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 地域の課題を、地球規模で考え、解決に向けて貢献できる

授業概要

授業では、政策に関する調査・研究を行ううえで必要な考え方やスキルを取り上げるとともに、受講者の関心に応じた具体的な調査研究テーマを設定してリサーチを行い、調査結果をまとめる。

授業全体では、次の3点を取り上げる。第1に、教育政策立案・評価のポイントと、政策リサーチのあらましについて学ぶ。第2に、リサーチ・クエスチョンと仮説の立て方、資料の探し方など、具体的なスキルについて述べる。第3に、受講者の関心に応じたテーマに基づき、実際に研究計画を検討する。

授業スケジュール

授業の状況に応じて若干の変更がありうる。

- 1 授業のねらいと構成：教育政策立案・評価のためのポイント
- 2 教育政策立案・評価のための方法：政策リサーチとは何か
- 3 リサーチ・クエスチョンの立て方
- 4 ワーク：リサーチ・クエスチョンを立ててみる
- 5 資料の探し方
- 6 ワーク：資料を探してみる
- 7 仮説の立て方
- 8 仮説検証の方法
- 9 ワーク：仮説検証を考えてみる
- 10 リサーチのまとめ方と政策化
- 11 リサーチ・プロポーザルの検討 (1)
- 12 リサーチ・プロポーザルの検討 (2)

- 13 リサーチ・プロポーザルの検討 (3)
- 14 リサーチ・プロポーザルの検討 (4)
- 15 授業のまとめ

授業時間外学習にかかわる情報

事前に教科書に目を通しておくことが望ましい。

成績評価方法

授業への参加度、報告の内容により評価を行う。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	政策リサーチ入門			ISBN	
	著者名	伊藤修一郎	出版社	東京大学出版会	出版年	2011

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	社会科学系のための「優秀論文」作成術			ISBN	
	著者名	川崎剛	出版社	勁草書房	出版年	2010

参考書2	書名	データ分析のカー因果関係に迫る思考法			ISBN	
	著者名	伊藤公一朗	出版社	光文社	出版年	2017

参考書3	書名	原因を推論する			ISBN	9784641149076
	著者名	久米郁男	出版社	有斐閣	出版年	2013

参考書4	書名	知的複眼思考法—誰でも持っている創造力のスイッチ			ISBN	4062566109
	著者名	荻谷剛彦	出版社	講談社	出版年	2002

参考書5	書名	勝つための論文の書き方			ISBN	
	著者名	鹿島茂	出版社	文藝春秋	出版年	2003

教科書・参考書に関する補足情報

オフィスアワー

非常勤講師のため、オフィスアワーは設定していない。
必要がある場合は、担当者にメールで連絡すること。

Eメールアドレス

ymoffice@p.u-tokyo.ac.jp

連絡先

-

参照ホームページ

授業担当者のウェブサイト

<http://researchmap.jp/ymura>

その他

担当者からの連絡事項がある場合は、掲示および授業担当者のウェブサイトに掲載する。

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	22P03	教員研修プログラム開発演習 Development of Teacher Education Program		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
山崎 哲司, 平松 義樹, 城戸 茂, 遠藤 敏朗, 森田 桂子, 尾川 満宏 [YAMASAKI Tetsuji, HIRAMATSU Yoshiki, KIDO Shigeru, ENDO Toshiro, MORITA Keiko, OGAWA Mitsuhiro]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 発展科目	対象学生	対象年次	1～

授業題目

教員研修プログラム開発演習
In-servis training of teaching program development practice

授業のキーワード

教員(teacher)、研修(training)、プログラム開発(program development)

授業の目的

本講座は、受講生が実際に松山市教育研修センターの指導主事と連携協力して、教員研修プログラム作成段階から参画し、体験的に学んで資質・能力を育てることを目的としています。計画段階では、自らのアイデアを提供し、実際の研修場面では指導主事のアシストをし、受講生の研修評価アンケートをまとめるなどの活動を体験します。そこで得られた情報を、大学教員と指導主事を交えて協議しながら、自らの課題を多面的・多角的に考察し、教員養成プログラム開発について提案します。特に、いじめ問題等指導者養成研修の提案ができることを目指します。

授業の到達目標

- ① 松山市教育研修センター指導主事と協力しながら、松山市教員研修計画作成に企画段階から参画し、教員研修プログラム作成の要領を理解する。
- ② 作成された研修会に参加し、研修運営のアシストをすることにより、教員研修プログラムの現状と課題を整理し、presentationにまとめる。
- ③ 教員研修プログラムの開発の工夫点・改善点をまとめ、提案発表する。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる

授業概要

本講座は、受講生が実際に松山市教育研修センターの指導主事と連けて協力して、教員研修プログラム作成段階から参画し、体験的に学んで資質・能力を育てることを目的としています。計画段階では、自らのアイデアを提供し、実際の研修場面では指導主事のアシストをし、受講生の研修評価アンケートをまとめるなどの活動を体験します。そこで得られた情報を、大学教員と指導主事を交えて協議し、自らの課題を多角的・多面的に考察し、起用イン養成プログラム開発について提案します。

授業スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 本講座の目的と進め方
- 第3回 松山市教育研修センター指導主事の講話①
- 第4回 松山市教育研修センター指導主事の講話②
- 第5回 教員研修の計画・実施・評価の工夫と課題①
- 第6回 教員研修の企画・実施・評価の工夫と課題②
- 第7回 フィールド演習Ⅰ
- 第8回 フィールド演習Ⅰの振り返り
- 第9回 フィールド演習Ⅱ
- 第10回 フィールド演習の振り返りⅡ

- 第11回 「いじめ問題研修会」の新プログラム提案
- 第12回 フィールド演習Ⅲ
- 第13回 フィールド演習の振り返り
- 第14回 課題研究研修
- 第15回 課題研究発表会

授業時間外学習にかかわる情報

自ら設定した研究課題を達成するための授業外の研究は、樹脂的に継続的に行う必要があります。

成績評価方法

- ・「いじめ問題」新プログラムの発表
- ・課題研究発表

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	教育研究ハンドブック			ISBN	479071103X
	著者名	立田慶裕	出版社	世界思想社	出版年	2005

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	心理学の実践的研究法を学ぶ			ISBN	9784788510999
	著者名	下山晴彦他	出版社	新曜社	出版年	2008

教科書・参考書に関する補足情報

特定の教科書は使用しません。それぞれの講師が、その都度、資料提供します。図書の購入の必要はありません。

オフィスアワー

水曜日の午前（10:00～11:30）
会議等で不在の場合は、メールでお受けします。

Eメールアドレス

hiramatsu.yoshiki.mx@ehime-u.ac.jp

連絡先

持田町1丁目5番22号 教育学部附属小学校内 教育実践総合センター
913-7882

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	22P04	信頼を構築する学校危機管理 Risk Management for Building Trust in Schools		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
露口 健司, 小田 哲志, 高橋 葉子, 森田 桂子 [TSUYUGUCHI Kenji, ODA tetsushi, TAKAHASHI Yoko, MORITA Keiko]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 発展科目	対象学生	対象年次	1～

授業題目

信頼を構築する学校危機管理（Risk Management for Building Trust in Schools）

授業のキーワード

リーダー教員(leader of school teachers)、いじめ (Bullying)、不登校 (School refusal)、クレーム対応 (Objection correspondence)

授業の目的

よりよい学校は、教師と児童・生徒、教職員同士、教師と保護者や地域住民相互のよりよい人間関係の上に成り立っている。この相互関係を改善し、マネジメントするスクールリーダーとしての資質を習得する。具体的に学校における様々な危機場を想定し考察することで、問題の構図を理解し対応の在り方について体系的に考える力量を身に付け、信頼構築戦略を計画する。

授業の到達目標

(1)スクールリーダーとして必要な学校危機管理の知識を理解するとともに、学校の危機管理計画を作成することができる。
(2)スクールリーダーとして必要な保護者関係マネジメントの知識を理解するとともに、学校の信頼構築戦略を計画することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
目的達成のために多様な人と協働できる
社会的関係の中で自分の行動を調整できる
集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

授業概要

学校における信頼構築を、学校危機管理という「防御」面と、保護者関係マネジメントという「攻勢」面から理解し、それぞれについての計画を策定する能力を習得する。前半では、計画作成とともに、計画を運用していく方法についても学習する。後半では、保護者との関係が、実は学校にとっての重大な状況悪化要因であることを押さえる。生きた事例を対象とすることを意図し、いくつかの事例については、現職の学校管理職を外部講師として招聘する。

授業スケジュール

第1回：危機管理と信頼構築（露口健司・小田哲志・高橋葉子・森田桂子）
第2回：信頼されるリーダーとしての対応（小田哲志・高橋葉子）
第3回：教職員の含服務とは（小田哲志・森田桂子）
第4回：学校の危機管理（森田桂子・高橋葉子）
第5回：不祥事発生時の関係機関への対応（小田哲志担当）
第6回：学校危機管理に関する事例発表1（露口健司・小田哲志・高橋葉子・森田桂子）
第7回：学校危機管理に関する事例発表2（露口健司・小田哲志・高橋葉子・森田桂子）
第8回：学校危機管理に関する事例発表3（露口健司・小田哲志・高橋葉子・森田桂子）
第9回：教員のわいせつ不祥事への対応（小田哲志担当）
第10回：学校が板挟みとなる児童生徒の問題行動への対応（小田哲志担当）
第11回：不祥事発生時における関係機関等との対応（小田哲志担当）
第12回：いじめ事例への対応（高橋葉子担当）
第13回：食物アレルギー等学校事故への対応（高橋葉子・森田桂子）

第14回：指導力不足教員への対応（高橋葉子・森田桂子）
第15回：コンプライアンス研修の持ち方・マニュアルの再点検
（露口健司・小田哲志・高橋葉子・森田桂子）

授業時間外学習にかかわる情報

学校危機管理に関する事例研究プレゼン資料の作成
各時間の講義に対する所感作成

成績評価方法

事前課題の遂行状況，演習・協議への参加状況，授業内課題の遂行状況，事例研究の口頭発表用資料内容及びプレゼン力を考慮して総合的に判断する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	愛媛県教育関係法令集			ISBN	-
	著者名	愛媛県教育委員会事務局 管理部教育総務課 編集	出版社	第一法規	出版年	2017

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	学校組織の信頼			ISBN	9784864291682
	著者名	露口健司	出版社	大学教育出版	出版年	2012

教科書・参考書に関する補足情報

独自に作成したものを配布

オフィスアワー

小田哲志 水3時限

Eメールアドレス

oda.tetsushi.yv@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部1号館3階320室

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	22P07	人材育成演習 OJT Seminar		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
露口 健司, 山崎 哲司, 城戸 茂, 高橋 葉子, 本田 哲也 [TSUYUGUCHI Kenji, YAMASAKI Tetsuji, KIDO Shigeru, TAKAHASHI Yoko, HONDA Tetsuya]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 発展科目	対象学生	対象年次	1～

授業題目

人材育成の理論と実践（Theory and Practice for Developing Human Capital）

授業のキーワード

人材育成（Human Resource Development）、目標管理（Management by Objective）、人事評価（Personnel Evaluation）、

授業の目的

スクールリーダーには、人材育成についての知識と実践力が求められる。本授業では、これらの基礎となる理論と実践例について学習する。

School leaders are required to have knowledge and practical skills for training internally at school. In this lesson, you will learn about the theories and practical examples that underlie these.

授業の到達目標

- (1) 学校において、教員の成長を促進し、職能を高める人材育成の方法について理解する。
- (2) 教員評価制度を人材育成と関連づけ、効果的に運用しようとする態度と基本的技能を、演習を通して習得する。
- (3) 校内において人材育成を行うための計画を立案することができる。

- (1) You understand how to foster human resources that promotes the growth of teachers and improves professional skills at school.
- (2) You master attitudes and fundamental skills to effectively operate the teacher evaluation system by relate the human resource development through seminar sessions.
- (3) You can draw up plans for training human resources in the school.

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

本科目では、人材育成をキーワードとして、4つの領域について学ぶ。A領域：教職キャリア論。主に教員育成指標の概要について学び、学校での生かし方を提案する。B領域：目標管理論。モチベーション向上の方法論として捉え、効果的な運用方法を提案する。C領域：チーム学校のスタッフ育成。教員だけでなく、専門的スタッフの育成についても学ぶ。D領域：若年層教員の育成。松山市教育研修センターの3年目経験者研修で講師を務め、若年層の人材育成を実践する。

授業スケジュール

- はじめに
 A：教職キャリア論－教員育成指標と研修体系－
 A：学校における教員育成指標の活用
 A：キャリア適応ワークショップ

B : 目標管理制度の効果的運用のために
 B : モチベーションのとらえ方と高め方
 B : 魅力的な目標を立てよう
 C : これからの教員養成の在り方について - 学部教育との接続を視野に入れて -
 C : チーム学校 専門的スタッフ養成講座 構想発表(1)
 C : チーム学校 専門的スタッフ養成講座 構想発表(2)
 C : チーム学校 専門的スタッフ養成講座 構想発表(3)
 D : 行政研修での指導体験 3年目経験者研修 準備
 D : 行政研修での指導体験 3年目経験者研修 指導
 まとめ 学校管理職の人材育成

Introduction

A: Teacher career theory - Teacher training index and training system -
 A: Utilization of teacher training index at school
 A: Workshop for career adaptation
 B: For effective operation of the management by objection system
 B: utilization of motivation theory
 B: Let's make attractive goals
 C: About the future way of teacher training - with a view to connection with undergraduate education -
 C: School as a team; Professional staff training course concept presentation (1)
 C: School as a team; Professional staff training lecture concept presentation (2)
 C: School as a team; Professional staff training course concept presentation (3)
 D: Teaching experience in administrative training 3rd year Experience training preparation
 D: Teaching experience in administrative training 3rd year Experience training guidance
 Conclusion: Human resource development of school manager

授業時間外学習にかかわる情報

事前配付資料の予習。

成績評価方法

学習過程の成果物、最終レポート、学習意欲等を総合的に評価

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「-」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	個人、組織、チームを伸ばす 目標管理の教科書			ISBN	9784478017999
	著者名	五十嵐英憲	出版社	ダイヤモンド社	出版年	2012

参考書2	書名	人材育成の教科書			ISBN	9784845203147
	著者名	高原暢恭	出版社	労務行政	出版年	2010

教科書・参考書に関する補足情報

「-」

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

tsuyuguchi.kenji.mg@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部本館2階

参照ホームページ

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	12P001	学校改善課題研究 1 Theme Study on School Improvement 1		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
露口 健司, 城戸 茂, 山崎 哲司, 平松 義樹, 小田 哲志, 高橋 葉子, 森田 桂子, 本田 哲也, 尾川 満宏 [TSUYUGUCHI Kenji, KIDO Shigeru, YAMASAKI Tetsuji, HIRAMATSU Yoshiki, ODA tetsushi, TAKAHASHI Yoko, MORITA Keiko, HONDA Tetsuya, OGAWA Mitsuhiro]				2
■ 授業科目区分		専門教育科目（大学院） 課題研究	■ 対象学生	■ 対象年次
				1～

授業題目

学校改善のための課題探索（Theme Research for School Improvement）

授業のキーワード

学校改善（School Improvement）、組織マネジメント（Organizational Management）、学校評価（School Evaluation）

授業の目的

地域連携実習において、学校の経営課題を探索し、具体的な改善プランを作成する。こうした活動を通して習得される知識・能力は、学校管理職にとって必要不可欠である。

In practical training in cooperation with the community, we will explore school management issues and make concrete plan for improvement. The knowledge and skills gained through these activities are essential to the operation of the school.

授業の到達目標

- (1) 学校での支援実践を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。
- (2) 指導チームで検討した解決策を、学校の実情に応じて実行することができる。
- (3) 課題研究プレゼンテーションのテーマを設定することができる。

- (1) Through support practices at schools, you can discover tasks and conceive solutions to that problem.
- (2) You can be executed the solution examined by the teaching team according to the actual situation of the school.
- (3) You can be set research issues the theme of the presentation.

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

前期地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。学校改善課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として位置づけられる。

授業スケジュール

- 第1回 はじめに Introduction
 第2回 学校ビジョン school vision

- 第3回 学校ビジョンの作成演習 school vision creation sessions
- 第4回 学校経営計画と組織編制 school management plan and organizing
- 第5回 学校経営計画と組織編制演習 school management plan and organizing sessions
- 第6回 各分掌の目標・取組指標・成果指標 goals of each division, action indicators, outcome indicators
- 第7回 分掌目標・取組指標・成果指標の設定演習 Divisional goal, action indicator, setting of performance indicators sessions
- 第8回 保護者・地域への学校ビジョンの発信 sending of school vision to parents and community
- 第9回 学校通信作成演習 school letter creation sessions
- 第10回 学校説明資料改善演習 school explanation material improvement sessions
- 第11回 学校・家庭・地域の連携協力による行事づくり school event creation through the collaboration of schools, families and communities
- 第12回 学校行事改善演習 school event improvement practice sessions
- 第13回 学校評価の支援 support for the school evaluation
- 第14回 学校評価システム改善演習 school evaluation system improvement sessions
- 第15回 前期の省察 reflections of this term

授業時間外学習にかかわる情報

毎回、地域連携実習における実践内容のレポートが、授業時間外学習として課される。

成績評価方法

毎回の実践支援報告、省察能力、改善プランの立案、改善プランの実行力、課題研究プレゼンテーションのテーマ立案について考慮し、総合的に評価する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

毎回、学習内容に即した資料を配布する。

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

tsuyuguchi.kenji.mg@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部本館2階

参照ホームページ

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	22P001	学校改善課題研究 2 Theme Study on School Improvement 2		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
露口 健司, 城戸 茂, 山崎 哲司, 平松 義樹, 小田 哲志, 高橋 葉子, 森田 桂子, 本田 哲也, 尾川 満宏 [TSUYUGUCHI Kenji, KIDO Shigeru, YAMASAKI Tetsuji, HIRAMATSU Yoshiki, ODA tetsushi, TAKAHASHI Yoko, MORITA Keiko, HONDA Tetsuya, OGAWA Mitsuhiro]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 課題研究	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

学校改善のための課題深化（Theme Clarification for School Improvement）

授業のキーワード

学校改善（School Improvement）、組織マネジメント（Organizational Management）、学校評価（School Evaluation）

授業の目的

地域連携実習において、学校の経営課題を探索し、具体的な改善プランを作成し、実行する。こうした活動を通して習得される知識・能力は、学校管理職にとって必要不可欠である。
In practical training in cooperation with the community, we will explore school management issues and make concrete plan for improvement. The knowledge and skills gained through these activities are essential to the operation of the school.

授業の到達目標

- (1) 学校での支援実践を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。
- (2) 指導チームで検討した解決策を、学校の実情に応じて実行することができる。
- (3) 課題研究プレゼンテーションのテーマを設定することができる。
- (1) Through support practices at schools, you can discover tasks and conceive solutions to that problem.
- (2) You can be executed the solution examined by the teaching team according to the actual situation of the school.
- (3) You can be set research issues the theme of the presentation.

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

後期地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。学校改善課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての計画作成の機会として位置づけられる。

授業スケジュール

- 第1回 導入 introduction
 第2回 若年教員の授業力・指導力 Teaching skills and leadership skills of Young teachers
 第3回 若年層教員を対象とした授業力・指導力向上演習 Exercise for improving instruction and leadership skills for young generation teachers

- 第4回 授業研究の活性化 Activation of lesson study
- 第5回 授業研究活性化演習 lesson study activation sessions
- 第6回 目標管理のための面談 interview session for the management by objection
- 第7回 目標管理のための面談演習 seminar on interview session for the management by objection
- 第8回 信頼を築く授業参観・懇談会 trust building classroom visit/round table meeting
- 第9回 授業参観・懇談会の設定演習 seminar on class visit/ setting up a round table
- 第10回 PTA活動の支援 support for PTA activities
- 第11回 PTA活動活性化演習 seminar on revitalization of PTA activities
- 第12回 学校評価の支援 support for school evaluation
- 第13回 学校評価データの分析・表現演習 seminar on analysis and expression exercise of school evaluation data
- 第14回 課題研究プレゼンテーション1 presentation 1
- 第15回 課題研究プレゼンテーション2 presentation 2

授業時間外学習にかかわる情報

毎回、地域連携実習における実践内容のレポートが、授業時間外学習として課される。

成績評価方法

毎回の実践支援報告，省察能力，改善プランの立案，改善プランの実行力，課題研究プレゼンテーションのテーマ立案について考慮し，総合的に評価する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

毎回、学習内容に即した資料を配布する。

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

tsuyuguchi.kenji.mg@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部本館2階

参照ホームページ

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	通年	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	12P003	学校改善課題研究 3 Theme Study on School Improvement 3		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
露口 健司, 城戸 茂, 山崎 哲司, 平松 義樹, 小田 哲志, 高橋 葉子, 森田 桂子, 尾川 満宏, 本田 哲也 [TSUYUGUCHI Kenji, KIDO Shigeru, YAMASAKI Tetsuji, HIRAMATSU Yoshiki, ODA tetsushi, TAKAHASHI Yoko, MORITA Keiko, OGAWA Mitsuhiro, HONDA Tetsuya]				4
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 課題研究	■ 対象学生	■ 対象年次	2～

授業題目

実践研究報告書の作成とプレゼンテーション（Creating a practical research report and presentation）

授業のキーワード

学校改善（School Improvement）, 学校経営戦略（School Management Strategies）, リーダーシップ（Leadership）

授業の目的

自らの経営実践を、実践研究報告書としてまとめ、発表する作業を通して、学校改善に関する実践知を形式知化し、自己並びにコーホートの職能成長を促進する。

Through work to organize and announce their own business practices as practical research reports, convert practical knowledge on school improvement into formal knowledge and promote the self-and cohort professional development.

授業の到達目標

- (1)2年間の学習及び実践の成果を、「実践研究報告書」にまとめることができる。
- (2)課題研究プレゼンテーションにおいて豊かな表現力をもって報告することができる。

- (1) It is possible to summarize the results of learning and practice of two years into "practical research report".
- (2) You can be reported with rich expression skills in themed research presentation.

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討する。指導チームとの協議は、大学及び勤務校において行われる。2年間の実践を実践研究報告書にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて報告する。

授業スケジュール

- 第1回 導入 Introduction
- 第2回 リサーチデザインの学習 Research design
- 第3回 経営課題を特定する量的・質的データ分析法；質問紙作成とデータベース作成
Quantitative and qualitative data analysis method to Identify management Problems: Preparation of questionnaire and database creation
- 第4回 定量的データ分析法 Quantitative data analysis method

- 第5回 定性的データ分析法 Qualitative data analysis method
- 第6回 目標を共有化するコミュニケーション Communication to share the goal
- 第7回 対話・コミュニケーションに焦点をあてた分析 Goal Analysis focusing on the dialogue and communication
- 第8回 戦略の策定(1) 戦略のストーリー化 Strategy formulation(1): Making story of strategies
- 第9回 戦略の策定(2) 予期される障壁の洗い出しと解決策の検討 Strategy formulation(2): Identification of anticipated barriers and examination of solutions
- 第10回 戦略の策定(3) 戦略の検討会 Strategy formulation(3): Discuss the strategies
- 第11回 事前調査の実施と定量的データ分析 Preliminary survey and quantitative data analysis
- 第12回 事前調査の実施と定性的データ分析 Preliminary survey and qualitative data analysis
- 第13回 事前調査の分析結果の報告会 Discussion for analysis results of preliminary survey
- 第14回 学校でのプロジェクト目標と戦略の説明 Explanation of project goal and strategy in own school
- 第15回 中間総括 Intermediate Summary
- 第16回 戦略の実行と省察(1) 第1期の実施状況の検討 Strategy implementation and reflection(1): Review of implementation status in phase 1
- 第17回 戦略の実行と省察(2) 第2期の実施状況の検討 Strategy implementation and reflection(2): Review of implementation status in phase 2
- 第18回 戦略の実行と省察(3) 第3期の実施状況の検討 Strategy implementation and reflection(3): Review of implementation status in phase 3
- 第19回 戦略の実行と省察(4) 第4期の実施状況の検討 Strategy implementation and reflection(4): Review of implementation status in phase 4
- 第20回 戦略の実行と省察(5) 第5期の実施状況の検討 Strategy implementation and reflection(5): Review of implementation status in phase 5
- 第21回 データ収集とデータベース作成 Data collection and Database construction
- 第22回 プロジェクト成果の検討(1) データ分析の工夫 Review of project outcomes(1): Devices of data analysis
- 第23回 プロジェクト成果の検討(2) データ表現の工夫 Review of project outcomes(2): Devices of data presentation
- 第24回 改善点の抽出と改善案の策定 Extract improvement point and formulate improvement plan
- 第25回 改善策の実行と省察(1) 第1期の実施状況の検討 Improvement plan implementation and reflection(1): Review of implementation status in phase 1
- 第26回 改善策の実行と省察(2) 第2期の実施状況の検討 Improvement plan implementation and reflection(2): Review of implementation status in phase 2
- 第27回 改善策の実行と省察(3) 第3期の実施状況の検討 Improvement plan implementation and reflection(3): Review of implementation status in phase 3
- 第28回 改善効果の検証 Verification of improvement effect
- 第29回 実践研究報告書のまとめ、発表準備 Summary of practical research report and preparation for presentation
- 第30回 課題研究プレゼンテーション Themed research presentation

授業時間外学習にかかわる情報

毎回、地域連携実習における実践内容のレポートが、授業時間外学習として課される。

成績評価方法

毎回の実践支援報告、省察能力、改善プランの立案、改善プランの実行力、課題研究プレゼンテーションのテーマ立案について考慮し、総合的に評価する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「-」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	「-」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

毎回、学習内容に即した資料を配布する。

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

tsuyuguchi.kenji.mg@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部本館2階

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	22P09	教材開発演習 Development of Teaching Materials		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
吉村 直道, 平松 義樹, 立松 大祐, 井上 洋一, 高橋 葉子, 遠藤 敏朗 [YOSHIMURA Naomichi, HIRAMATSU Yoshiki, TATEMATSU Daisuke, INOUE Yoichi, TAKAHASHI Yoko, ENDO Toshiro]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 発展科目	対象学生	対象年次	1～

授業題目

教材開発演習（Development of Teaching Materials）

授業のキーワード

教材開発（Development of Teaching Materials）

授業の目的

高度な教科指導力を育成するため、基礎・基本に関わる学習内容や発展的な学習内容に関わる教材の提案ができるようになることは重要である。この授業では、現代求められている学力や現代的な課題等も考慮しながら、それらの教材開発やそれに伴う具体的な授業展開等を、受講者たちとともに考究していく。

授業の到達目標

算数・数学，社会，理科，道徳，英語の5教科において、基礎・基本に関わる学習内容と発展的な学習内容に関わる教材の提案がそれぞれできる。

また、ICTを利用した授業実践のあり方について考究するとともに、その授業を展開する際の留意点を理解する。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 目的達成のために多様な人と協働できる
 自らの個性や適性を活かして行動できる

授業概要

実際に小・中・高等学校で教育経験のある教員から学習者の関心・意欲を喚起できる教材の提案を行い、それを参考に受講生がグループごとディスカッションをしてアイデアを交換し、基礎・基本に関わる内容の教材と、発展的内容に関わる教材を提案し、それらを評価・改善し共有していく。受講生は、グループでの協働的な活動を基本として、多様な視点を取り入れながら教材開発に取り組む。その一連の活動を算数・数学，社会，理科，英語，道徳の5つの教科で行う。

また、ICTを利用した興味深い授業実践を受講生の方から提案してもらい、それを題材にICTを利用した授業実践のあり方と留意点について考究していく。

授業スケジュール

第1回：授業における教材の意味と教材の作成方法
 The first: Meaning of teaching materials in class

第2回：算数・数学における教材開発：教員からの新教材の提案
 The second: Teaching materials development in mathematics learning

第3回：道徳における教材開発（1）：教員からの新教材の提案と学生準備
 The third: Teaching materials development in moral study(1)

第4回：道徳における教材開発（2）：学生による基礎・基本に関する新教材及び発展的内容に関する新教材の提案と協議

The 4th:Teaching materials development in moral study(2)

第5回：社会科における教材開発（1）：教員からの新教材の提案と学生準備
The 5th:Teaching materials development in social study(1)

第6回：社会科における教材開発（2）：学生による基礎・基本に関する新教材及び発展的内容に関する新教材の提案と協議
The 6th:Teaching materials development in social study(2)

第7回：理科における教材開発（1）：教員からの新教材の提案と学生準備
The 7th:Teaching materials development in science learning(1)

第8回：理科における教材開発（2）：学生による基礎・基本に関する新教材及び発展的内容に関する新教材の提案
The 8th:Teaching materials development in science learning(2)

第9回：音楽における教材開発（1）：教員からの新教材の提案と学生準備
The 9th:Teaching materials development in music(1)

第10回：音楽における教材開発（2）：学生からの新教材の提案
The 10th:Teaching materials development in music(2)

第11回：英語における教材開発（1）：教員からの新教材の提案と学生準備
The 11th:Teaching materials development in english learning(1)

第12回：英語における教材開発（2）：学生からの新教材の提案
The 12th:Teaching materials development in english learning(2)

第13回：ICTを利用した教材開発（1）：ICTを利用する際の留意点等の検討
The 13th:Teaching materials development using ICT (1)

第14回：ICTを利用した教材開発（2）：学生による事例発表
The 14th:Teaching materials development using ICT (2)

第15回：教科の教材開発演習総括
The 15th:Reflection through the whole

授業時間外学習にかかわる情報

授業時間外学習を利用して、受講者に、算数・数学、社会、理科、音楽、英語、道徳の5教科における具体的な教材を構想、準備してもらい、それらを資料として授業で検討していく。

成績評価方法

算数・数学、社会、理科、音楽、英語、道徳それぞれの分野における教材開発の成果確認（15%）とともに、ICTを利用した教材開発についてレポートの確認（10%）をもって、総合的に評価する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	小学校・中学校・高等学校学習指導要領解説（各教科）			ISBN	
	著者名	文部科学省	出版社		出版年	

参考書2	書名	中学校・高校数学科 新教材の開発とアイデア			ISBN	4185698119
	著者名		出版社	明治図書	出版年	2006

	正田實・景山三平・井ノ迫泰弘他編			
--	------------------	--	--	--

教科書・参考書に関する補足情報

適宜、資料を配布し、講義を進める。

オフィスアワー

オフィスアワーは、第1回の授業で周知します。
訪問の際は、事前にメール連絡をして来室していただくと、お互いに助かります。

Eメールアドレス

naomichi@ehime-u.ac.jp

連絡先

研究室：教育学部2号館3F（322室）

参照ホームページ

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	22P10	教育課題解決のための教育プログラム開発演習 Development of Educational Programs for Problem Solving		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
太田 佳光, 白松 賢, 小田 哲志, 向 平和 [OTA Yoshimitsu, SHIRAMATSU Satoshi, ODA tetsushi, MUKO Heiwa]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 発展科目	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

教育課題解決のための教育プログラム開発演習(Development of Educational Programs for Problem Solving)

授業のキーワード

いじめ問題（bullying problem）,情報モラル（information morality）

授業の目的

いじめ問題、ネットモラル教育など、現在学校教育現場で生起している諸課題について、深く理解し、その解決のためのプログラムを作成する事ができる。

授業の到達目標

- ① 現代的教育課題の現状と特質を理解する事ができる。
- ② それぞれの教育課題解決のための基本的な視座を理解し、具体的なプログラム開発ができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

必要な情報を収集・整理できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

いじめをはじめとする様々な教育課題への対応を考え、その解決のための教育プログラム開発を演習形式で行う。とりあげる教育課題は、いじめ、思春期問題（性教育、薬物乱用防止、学校や社会への適応）、ネットモラル教育である。それぞれの課題の代表的な事例を検討し、その解決プログラムを、特別活動、道徳教育、総合的な学習の時間を中心として開発する。それぞれの開発プログラムの作成と検討を通して、教育課題解決のための実践的能力の育成を図りたい。

授業スケジュール

- 第1回：教育課題解決のためのプログラム開発の意義（担当：太田佳光・白松賢・小田哲志）
- 第2回：いじめ問題防止のプログラム開発（1）：事例の検討（担当：太田佳光）
- 第3回：いじめ問題防止のプログラム開発（2）：プログラムの作成（担当：太田佳光）
- 第4回：いじめ問題防止のプログラム開発（3）：プログラムの発表と検討（担当：太田佳光）
- 第5回：いじめ問題防止のプログラム開発（4）：プログラムの発表と検討（担当：太田佳光）
- 第6回：思春期教室のプログラム開発（1）：事例の検討（担当：白松賢・小田哲志）
- 第7回：思春期教室のプログラム開発（2）：プログラムの作成（担当：白松賢・小田哲志）
- 第8回：思春期教室のプログラム開発（3）：プログラムの発表と検討（担当：白松賢・小田哲志）
- 第9回：思春期教室のプログラム実習事前指導（1）：（担当：小田哲志）
- 第10回：思春期教室のプログラム実習（2）：（担当：小田哲志）
- 第11回：思春期教室のプログラム実習事後指導（3）：（担当：小田哲志）
- 第12回：ネットモラル教育のプログラム開発（1）：事例の検討（担当：小田哲志・白松賢）
- 第13回：ネットモラル教育のプログラム開発（2）：プログラムの作成（担当：小田哲志・白松賢）

第14回：ネットモラル教育のプログラム開発（3）：プログラムの発表と検討（担当：小田哲志）
第15回：授業の総括と課題の確認（担当：太田佳光・白松賢・小田哲志）

授業時間外学習にかかわる情報

授業内容にしたがって、プログラム作成の必要がある。詳しくは、授業時に指示する。

成績評価方法

討議・報告・授業への取組（30%）、プログラム実習（20%）、レポート（50%）

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	小・中学校学習指導要領解説 特別活動編、道徳編、総合的な学習の時間編			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

必要な資料は、授業時に配布する。

オフィスアワー

木曜16：30～17：30

Eメールアドレス

ota.yoshimitsu.my@ehime-u.ac.jp

連絡先

附属教育実践総合センター（913-7863）

参照ホームページ

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	22P11	学級経営と生徒指導の事例研究 Case Study on Classroom Management and Guidance counseling		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
白松 賢, 太田 佳光, 城戸 茂, 杉田 浩崇 [SHIRAMATSU Satoshi, OTA Yoshimitsu, KIDO Shigeru, SUGITA Hiroataka]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 発展科目	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

学級経営と生徒指導の事例研究
Case Study on Classroom Management and Guidance counseling

授業のキーワード

学級経営（Creative Classroom Management）, 生徒指導（Guidance and Counseling）, 事例研究（Case Study）

授業の目的

学級経営や生徒指導の最新の実践事例や問題事象をもとに、学級経営や生徒指導の実践的指導力を高める。

授業の到達目標

- (1) 学級経営及び生徒指導の理論に基づき、実践的に事例を考察することができる。
- (2) 事例を通じたディスカッションを通して、同僚性を高めるコミュニケーションスキルを身につけることができる。
- (3) 教育臨床学的知識・技能を用いて、学級経営・生徒指導上の課題を考察することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 自らの個性や適性を活かして行動できる
 地域の課題を、地球規模で考え、解決に向けて貢献できる

授業概要

いじめ・不登校、学級崩壊や校内暴力の低年齢化など、学級経営や生徒指導に関する問題が議論されている。これらの問題解決に向き合う上で、学級経営と生徒指導の質を高めることが求められている。そこで、様々な事例をもとに、ディスカッション、ロールプレイ、ワークショップを行い、実践的に、学級経営や生徒指導に資する資質能力の開発を行う。

授業スケジュール

- 第1回：学級経営と生徒指導の諸問題
- 第2回：学級崩壊・校内暴力の低年齢化
- 第3回：いじめで考える学級経営の実践課題
- 第4回：個をいかす集団づくりと学級経営
- 第5回：学級経営の3領域と生徒指導の関わり
- 第6回：学級の秩序と「ほめる」「叱る」技法 - 事例をもとに -
- 第7回：予防開発的アプローチとしての生徒指導の実践例
- 第8回：生徒指導における集団指導の実践例
- 第9回：生徒指導における個別指導の実践例
- 第10回：道徳・特別活動と生徒指導
- 第11回：ケースで学ぶ保護者に信頼される学級づくり(1)
- 第12回：ケースで学ぶ保護者に信頼される学級づくり(2)
- 第13回：ケースで学ぶ保護者の信頼を高める生徒指導(1)

第14回：ケースで学ぶ保護者の信頼を高める生徒指導(2)
第15回：学級経営と生徒指導の改善策

授業時間外学習にかかわる情報

【予習】事前の課題プリントや資料を読む必要がある。
【復習】授業内容で得た知識や技能を活用して、レポートを作成する。

成績評価方法

レポート50%、授業中の活動・ワーク等50%

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	生徒指導提要			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

-

オフィスアワー

木曜日12:30～14:30

Eメールアドレス

shiramatsu.satoshi.mb@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部1号館2階201

参照ホームページ

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	22P12	特別な教育的ニーズへの対応 Support for children with special educational needs		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
荻田 知則, 榎木 暢子 [KARITA Tomonori, KASHIKI Nagako]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 発展科目	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

特別な教育的ニーズへの対応
Support for children with special educational needs

授業のキーワード

特別支援教育、合理的配慮、学習困難への対応、生活上の困難への対応

授業の目的

本授業でインクルーシブ教育システム構築に寄与できる人材育成を目指し、以下の目標を設定する。
①児童生徒の特別な教育的ニーズを把握し、合理的な配慮を考えることができる。
②実習校における事例に対して、学校全体での支援、家庭や地域との連携について具体的な方策を提示できる。

We set the following targets with the aim of developing human resources capable of contributing to inclusive education system construction.

- ① It is possible to understand the special educational needs of students and consider reasonable consideration.
- ② For case studies in practical schools, present concrete measures on support throughout the school, cooperation with families and communities.
- ② For case studies in practical schools, present concrete measures on support throughout the school, cooperation with families and communities.

授業の到達目標

- ①特別な教育的ニーズがある児童生徒に対して、個別の教育支援計画を作成することができる（知識・理解）
- ②学習困難への具体的な支援方法を立案できる（思考・判断）
- ③特別な教育的ニーズのある児童生徒が在籍する学校での授業を立案できる（技能）

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
他者を理解し、他者のために役立つことができる

授業概要

特別な教育的ニーズのある児童生徒に対する理解を深め、学習上及び生活上の困難への対応を検討する。
数回の授業で主要な内容を概説し、10回程度は学生の反転授業、レポート発表と討議を中心に行う。

授業スケジュール

1. 問題提起、特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の理念
2. 個別の教育支援計画、個別の指導計画の理解
3. キャリア発達と学齢期の課題
4. 学習困難への対応①読み書きへの支援
5. 学習困難への対応②漢字書字への支援
6. 学習困難への対応③算数困難への支援
7. 学習困難への対応④数学困難への支援
8. コミュニケーションの課題への対応

9. ソーシャルスキルの課題への対応
10. 自己理解を促す支援
11. 特別な教育的ニーズに対応する授業づくり①小学校低学年
12. 特別な教育的ニーズに対応する授業づくり②小学校高学年
13. 特別な教育的ニーズに対応する授業づくり③中学校1年
14. 特別な教育的ニーズに対応する授業づくり④中学校3年
15. 特別な教育的ニーズに対応する授業づくり⑤高等学校

1. Basic of Special educational needs and Inclusive Education
2. Individual educational support plan and Individual teaching plan
3. Career development, School-age issues
4. Support for LD: Leading, writing
5. Support for LD: writing Kanji
6. Support for LD: arithmetic
7. Support for LD: Mathematics
8. Support for communication
9. Support for Social skills
10. Support for encouraging self-understanding
11. Simulated lesson with response to special educational needs: Elementary school lower grades
12. Simulated lesson with response to special educational needs: Elementary school higher grades
13. Simulated lesson with response to special educational needs: middle school 1st grade
14. Simulated lesson with response to special educational needs: middle school 3rd grade
15. Simulated lesson with response to special educational needs: high school

授業時間外学習にかかわる情報

本授業では学習支援に関する反転授業を行うので、発表資料を作成すること。
また、個別の教育支援計画及び個別の指導計画の作成、授業案作成など、実習校での事例に対する支援方法について討議資料を提出すること。

成績評価方法

各課題及び授業内における討議の状況、レポート等で評価する

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	通常学級での特別支援教育のスタンダード			ISBN	9784487804900
	著者名	東京日野市公立小中学校全教師・教育委員会	出版社	東京書籍	出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	認知心理学からみた数の理解			ISBN	4762820385
	著者名	吉田甫・多鹿秀継	出版社	北大路書房	出版年	

参考書2	書名	ディスレクシア：読み書きのLD 親と専門家のためのガイド			ISBN	9784487797257
	著者名	スノウリング	出版社	東京書籍	出版年	

参考書3	書名	こんなとき、どうする？発達障害のある子への支援			ISBN	
	著者名	内山登紀夫監修	出版社	ミネルヴァ書房	出版年	

参考書4	書名				ISBN	
------	----	--	--	--	------	--

		共に学び合うインクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例			9784863712508
	著者名	国立特別支援教育総合研究所	出版社	ジアース教育新社	出版年 2014

参考書5	書名	特別支援学校学習指導要領			ISBN	9784303124229
	著者名		出版社	海文堂出版	出版年	2009

参考書6	書名	特別支援学校学習指導要領解説総則等編			ISBN	9784316300160
	著者名		出版社		出版年	

参考書7	書名	特別支援学校学習指導要領解説自立活動編			ISBN	9784303124328
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

実習校の教育課程に応じた学習指導要領解説（各教科）を参考にすること

オフィスアワー

金曜3限（12：40～14：10）

Friday 12:40~14:10

Eメールアドレス

kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp

連絡先

研究室：教育学部 4号館 2階（オフィスアワー以外に訪問する場合は、必ず予約を取ること。）
089-927-9521（直通）

参照ホームページ

その他

通常の学級には約6.5%の支援を必要とする児童生徒が在籍すると言われています。学習上や生活上の困難など、特別な教育的ニーズへの理解を深め、どの子ども豊かな学校生活が送れる授業づくりを目指しましょう。

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	22P13	児童生徒・保護者の教育相談実践 Educational counseling with Children and Parents		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
信原 孝司, 榎木 暢子 [NOBUHARA Takashi, KASHIKI Nagako]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 発展科目	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

-

授業のキーワード

児童生徒（Children）、保護者（Parents）、教育相談（Educational Counseling）、問題行動（Problem Behavior）

授業の目的

児童生徒や保護者の問題への理解を深め、教育現場における教育相談の対応実践力を培う。

授業の到達目標

- (1) 児童生徒の様々な問題行動を理解し、教育相談の実践方法を習得している。
- (2) 児童生徒の協力者としての保護者と連携し、教育相談を実践的に進めることができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 自らの個性や適性を活かして行動できる
 他者を理解し、他者のために役立つことができる

授業概要

家庭環境や地域環境の変化に伴い、児童生徒の問題に保護といかに協力・連携関係を紡いで協働していくかが、学校教育の課題となっている。この課題に対して本授業では、児童生徒の発達課題や問題行動への理解を深め、教育相談の具体的な方法を検討し、その実践力を習得する。

授業スケジュール

- 第1回：ガイダンスとオリエンテーション Guidance and Orientation
- 第2回：児童生徒の発達課題と問題行動1（社会状況と適応の視点）
Developing tasks and problem behavior of students 1 : viewpoint of social situation and adaptation
- 第3回：児童生徒の発達課題と問題行動2（二次障害と育みの視点）
Developing tasks and problem behavior of students 2 : viewpoint of secondary disorders and nurturing
- 第4回：児童生徒の発達課題と問題行動3（発達障害）
Developing tasks and problem behavior of students 3 : developmental disorders
- 第5回：児童生徒の発達課題と問題行動4（LD, ADHD）
Developing tasks and problem behavior of students 4 : LD, ADHD
- 第6回：教育相談における進路指導と就労支援
Career guidance and employment support in educational consultation
- 第7回：保護者との協働（保護者支援と児童虐待の問題）
Collaboration with parents (Parental support and child abuse issues)
- 第8回：教育相談技術の基礎1（傾聴と共感の技法）
Fundamentals of educational consultation technology 1 : Techniques for listening and empathy
- 第9回：教育相談技術の基礎2（相談実践ロールプレイ）
Fundamentals of educational consultation technology 2 : Role play of consultation practice

第10回：教育相談技術の基礎3（アセスメントの概要）
Fundamentals of educational consultation technology 3 : Overview of Assessment
第11回：教育相談技術の基礎4（アセスメントの理解とフィードバック）
Fundamentals of educational consultation technology 4 : Understanding and feedback on assessment
第12回：個別事例研究1（発達障害）
Case Study 1 : developmental disorders
第13回：個別事例研究2（進路指導と就労支援）
Case Study 2 : Career guidance and employment support
第14回：個別事例研究3（児童生徒）
Case Study 3 : Students
第15回：個別事例研究4（保護者）
Case Study 4 : Parents

授業時間外学習にかかわる情報

その時々授業内容に合わせて予習復習を行うこと。

成績評価方法

- ・ 授業での討議・報告と授業への取り組み（50%）、レポート（50%）。
- ・ 開講時間数の3分の2以上出席しなければ成績を評価しない。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	教師教育講座 第11巻 教育相談			ISBN	978-4319106806
	著者名	石田 弓 編著	出版社	協同出版	出版年	2014

教科書・参考書に関する補足情報

資料を必要に応じて配布する。

オフィスアワー

金曜日の4時限目（信原）

Eメールアドレス

nobuhara@ehime-u.ac.jp

kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部附属教育実践総合センター（信原）

参照ホームページ

<http://www.edc.ehime-u.ac.jp/index.html>

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	12P004	授業改善課題研究1 Theme Study on Lesson Improvement 1		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
立松 大祐, 太田 佳光, 橋本 巖, 白松 賢, 吉村 直道, 榎木 暢子, 井上 洋一 [TATEMATSU Daisuke, OTA Yoshimitsu, HASHIMOTO Iwao, SHIRAMATSU Satoshi, YOSHIMURA Naomichi, KASHIKI Nagako, INOUE Yoichi]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 課題研究	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

授業改善のための課題探索（Theme Search for Lesson Improvement）

授業のキーワード

授業改善（Lesson Improvement）、子ども理解（Understanding the Child）、授業設計（Instructional Design）、授業開発（Lesson Development）、授業計画のための省察（Reflection toward Action）

授業の目的

地域連携実習での実践を踏まえ、自己の授業課題や児童生徒の学習課題を明らかにし、授業計画を周囲との協働によって作成する。こうした授業改善能力は、教員として必要不可欠のものであり、授業改善過程を通して得られた知識は、教職生活において極めて有用である。

授業の到達目標

- (1) 学校・学年・学級等での支援実践を通して、課題を発見し、その解決案を構想することができる。
- (2) 指導チームで検討した解決策を、学校・学年・学級等の実情に応じて実行することができる。
- (3) 課題研究プレゼンテーションのテーマを設定することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

前期地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討し、授業（以下、幼稚園での保育を含む）改善を進める。授業改善課題研究3の課題研究プレゼンテーションに向けての課題探索の機会として位置づけられる。

授業スケジュール

- 第1回 オリエンテーション
 授業概要の説明。授業改善課題研究1の学習を通して、自己の成長課題・探究課題を明らかにする。
- 第2回 授業・実践支援の設計・実施・省察：子ども理解
- 第3回 子ども理解演習
- 第4回 授業・実践支援の設計・実施・省察：教材・題材の分析と理解
- 第5回 教材・題材作成演習
- 第6回 授業・実践支援の設計・実施・省察：授業・支援実践の計画
- 第7回 授業・実践支援計画の作成演習
- 第8回 授業・実践支援の設計・実施・省察：授業・実践支援の実施と協議
- 第9回 特別支援・個別支援演習

- 第10回 授業・実践支援の設計・実施・省察：授業・実践支援分析
第11回 授業・実践支援の事後分析演習
第12回 授業・実践支援の設計・実施・省察：授業・実践支援の振り返りと改善計画
第13回 授業・支援実践改善計画の作成演習
第14回 課題研究プレゼンテーションに向けてのテーマ検討
第15回 まとめ

授業時間外学習にかかわる情報

毎回、地域連携実習における実践内容のレポートが、授業時間外学習として課される。

成績評価方法

毎回の実践支援報告，省察能力，改善プランの立案，改善プランの実行力，課題研究プレゼンテーションのテーマ立案について考慮し，総合的に評価する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

毎回、学習内容に即した資料を配布する。

オフィスアワー

木曜16：30～17：30

Eメールアドレス

ota.yoshimitsu.my@ehime-u.ac.jp

連絡先

附属教育実践総合センター（913-7863）

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	22P002	授業改善課題研究2 Theme Study on Lesson Improvement 2		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
太田 佳光, 橋本 巖, 白松 賢, 吉村 直道, 榎木 暢子, 井上 洋一, 立松 大祐 [OTA Yoshimitsu, HASHIMOTO Iwao, SHIRAMATSU Satoshi, YOSHIMURA Naomichi, KASHIKI Nagako, INOUE Yoichi, TATEMATSU Daisuke]				2
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 課題研究	対象学生	対象年次	1～

授業題目

実践研究報告書の作成とプレゼンテーション（Creating a practical research report and presentation）

授業のキーワード

授業改善（Lesson Improvement）、子ども理解（Understanding the Child）、授業設計（Instructional Design）、授業開発（Lesson Development）、授業実践に向けての省察（Reflection toward Action）

授業の目的

自らの実践を、実践研究報告書としてまとめ、発表する作業を通して、授業実践に関する実践知を形式知化し、自己並びにコーホートの職能成長を促進する。

授業の到達目標

- (1)2年間の学習及び実践の成果を、「実践研究報告書」にまとめることができる。
- (2)課題研究プレゼンテーションにおいて豊かな表現力をもって報告することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員、研究者教員、実務家教員の3名で構成）において検討し、授業（以下、幼稚園での保育を含む）改善を進める。指導チームとの協議は、大学及び勤務校において行われる。2年間の実践を実践研究報告書にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて報告する。

授業スケジュール

- 第1回 ガイダンス
 授業概要の説明。実践研究報告書の纏め方についての指導。課題研究プレゼンテーションの要領の確認等。
- 第2回 リサーチデザイン
- 第3回 子ども理解の方法の深化：定性的データの分析法と実際
- 第4回 子ども理解の方法の深化：定量的データの分析法と実際
- 第5回 教材研究の深化(1) 先行実践の検討
- 第6回 教材研究の深化(2) 教材検討
- 第7回 教材研究の深化(3) 教材・題材のブラッシュアップ
- 第8回 授業構成の工夫とICT活用(1) 授業構成についての検討
- 第9回 授業構成の工夫とICT活用(2) ICTについての検討
- 第10回 模擬授業の実施
- 第11回 授業実践

- 第12回 授業実践に対する省察協議
- 第13回 授業分析の実施
- 第14回 授業改善課題の特定
- 第15回 中間まとめ
- 第16回 授業課題の改善 教材研究の深化
- 第17回 授業課題の改善 授業構成の工夫
- 第18回 授業課題の改善 授業実践の工夫
- 第19回 授業課題の改善 学習環境の工夫
- 第20回 模擬授業の実施
- 第21回 授業実践
- 第22回 授業実践に対する省察協議
- 第23回 授業分析の実施
- 第24回 授業改善課題の特定
- 第25回 授業実践記録等のデータの整理
- 第26回 授業改善活動の内部報告会
- 第27回 外部講師による授業改善活動への指導助言：愛媛県教育委員会義務教育課
- 第28回 外部講師による授業改善活動への指導助言：愛媛県教育センター
- 第29回 課題研究プレゼンテーションの発表準備
- 第30回 課題研究プレゼンテーション

授業時間外学習にかかわる情報

毎回、地域連携実習における実践内容のレポートが、授業時間外学習として課される。

成績評価方法

毎回の実践支援報告、省察能力、改善プランの立案、改善プランの実行力、課題研究プレゼンテーションのテーマ立案について考慮し、総合的に評価する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

毎回、学習内容に即した資料を配布する。

オフィスアワー

木曜16：30～17：30

Eメールアドレス

ota.yoshimitsu.my@ehime-u.ac.jp

連絡先

附属教育実践総合センター (913-7863)

参照ホームページ

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	通年	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	12P006	授業改善課題研究3 Theme Study on Lesson Improvement 3		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
太田 佳光, 橋本 巖, 白松 賢, 吉村 直道, 榎木 暢子, 井上 洋一, 立松 大祐 [OTA Yoshimitsu, HASHIMOTO Iwao, SHIRAMATSU Satoshi, YOSHIMURA Naomichi, KASHIKI Nagako, INOUE Yoichi, TATEMATSU Daisuke]				4
■ 授業科目区分		専門教育科目（大学院） 課題研究	■ 対象学生	■ 対象年次
				2～

授業題目

実践研究報告書の作成とプレゼンテーション（Creating a practical research report and presentation）

授業のキーワード

授業改善（Lesson Improvement），子ども理解（Understanding the Child），授業設計（Instructional Design），授業開発（Lesson Development），授業実践に向けての省察（Reflection toward Action）

授業の目的

自らの実践を、実践研究報告書としてまとめ、発表する作業を通して、授業実践に関する実践知を形式知化し、自己並びにコーホートの職能成長を促進する。

授業の到達目標

- (1)2年間の学習及び実践の成果を、「実践研究報告書」にまとめることができる。
- (2)課題研究プレゼンテーションにおいて豊かな表現力をもって報告することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 科学的根拠に基づき判断し、解決策を提示できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 目的達成のために多様な人と協働できる

授業概要

地域連携実習での実践支援経験を、隔週で報告・省察することによって、実践知を形成する。また、当該実習において発見した実践課題を共有し、改善策を指導チーム（地域連携実習の実習アドバイザー＝連携協力校教員，研究者教員，実務家教員の3名で構成）において検討し、授業（以下、幼稚園での保育を含む）改善を進める。指導チームとの協議は、大学及び勤務校において行われる。2年間の実践を実践研究報告書にまとめ、課題研究プレゼンテーションにおいて報告する。

授業スケジュール

- 第1回 ガイダンス
 授業概要の説明。実践研究報告書の纏め方についての指導。課題研究プレゼンテーションの要領の確認等。
- 第2回 リサーチデザイン
- 第3回 子ども理解の方法の深化：定性的データの分析法と実際
- 第4回 子ども理解の方法の深化：定量的データの分析法と実際
- 第5回 教材研究の深化(1) 先行実践の検討
- 第6回 教材研究の深化(2) 教材検討
- 第7回 教材研究の深化(3) 教材・題材のブラッシュアップ
- 第8回 授業構成の工夫とICT活用(1) 授業構成についての検討
- 第9回 授業構成の工夫とICT活用(2) ICTについての検討
- 第10回 模擬授業の実施
- 第11回 授業実践

- 第12回 授業実践に対する省察協議
- 第13回 授業分析の実施
- 第14回 授業改善課題の特定
- 第15回 中間まとめ
- 第16回 授業課題の改善 教材研究の深化
- 第17回 授業課題の改善 授業構成の工夫
- 第18回 授業課題の改善 授業実践の工夫
- 第19回 授業課題の改善 学習環境の工夫
- 第20回 模擬授業の実施
- 第21回 授業実践
- 第22回 授業実践に対する省察協議
- 第23回 授業分析の実施
- 第24回 授業改善課題の特定
- 第25回 授業実践記録等のデータの整理
- 第26回 授業改善活動の内部報告会
- 第27回 外部講師による授業改善活動への指導助言：愛媛県教育委員会義務教育課
- 第28回 外部講師による授業改善活動への指導助言：愛媛県教育センター
- 第29回 課題研究プレゼンテーションの発表準備
- 第30回 課題研究プレゼンテーション

授業時間外学習にかかわる情報

毎回、地域連携実習における実践内容のレポートが、授業時間外学習として課される。

成績評価方法

毎回の実践支援報告，省察能力，改善プランの立案，改善プランの実行力，課題研究プレゼンテーションのテーマ立案について考慮し，総合的に評価する。

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	「－」			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

毎回、学習内容に即した資料を配布する。

オフィスアワー

木曜16：30～17：30

Eメールアドレス

ota.yoshimitsu.my@ehime-u.ac.jp

連絡先

附属教育実践総合センター（913-7863）

参照ホームページ

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	12P100	異校種実習 Internship in Connected Schools of the Enrolled School		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
城戸 茂, 榎木 暢子, 森田 桂子, 小田 哲志, 遠藤 敏朗, 山崎 哲司, 高橋 葉子, 井上 洋一, 立松 大祐 [KIDO Shigeru, KASHIKI Nagako, MORITA Keiko, ODA tetsushi, ENDO Toshiro, YAMASAKI Tetsuji, TAKAHASHI Yoko, INOUE Yoichi, TATEMATSU Daisuke]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 実習科目	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

異校種実習（Internship in Connected Schools of the Enrolled School）

授業のキーワード

教育実習（Teaching Practice）、教授力の向上（Development of Teaching Skills）、教職への使命感（Cultivating a Sense of Mission for Teaching Job）

授業の目的

異校種実習（事前及び事後指導を含む）は、連携協力校において2週間にわたる集中した実習を通して、異校種の教育活動及び学校経営に対する理解を深め、現代の教育課題を解決する力を養う。

授業の到達目標

【学部卒業者】

- ①配属を希望する学校種との違いや特徴を、正しく理解し、分かりやすく表現することができる。
- ②異校種との連携促進における、一般的な課題を発見し、改善案を提示することができる。

【現職教員】

- ①勤務校種との違いや特徴を、組織・カリキュラム・指導法等の観点を立てた上で正しく理解し、分かりやすく表現することができる。
- ②異校種との連携促進における、自校の課題を発見し、実行可能で具体的な改善案を提示することができる。

【管理職候補者】

- ①勤務校種との違いや特徴を、政策・法令・組織・カリキュラム・指導法等の観点を立てた上で正しく理解し、分かりやすく表現することができる。
- ②異校種との連携促進における自校の課題を発見し、実現可能で具体的な改善案を、勤務校の校長に提示することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 社会的関係の中で自分の行動を調整できる
 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

授業概要

- 9月の2週間にわたり行う。
- 実習校は、原則として、主たる教員免許と隣接する校種とする。
- 実習においては、参与観察とインタビュー法等を通して、異校種における児童生徒の実態の把握、教職員の活動（教科指導、学級経営、課外活動等）の理解、学校経営体制の理解を図る。

授業スケジュール

- [5月]
 - ・希望調査
- [7月]
 - ・実習校決定
 - 【事前指導】
 - ・大学において異校種実習の目的, すすめ方等について事前の指導を行い, 実習計画をたてる。
- [8月]
 - ・実習校との打合せ
- [9月]
 - ・実習開始
 - 【第1週】
 - ・主として異校種における児童生徒理解を中心に参与観察などを行う。
 - ・大学教員による巡回指導を行う。
 - 【第2週】
 - ・主として異校種における教職員の活動について参与観察を行う。
 - ・大学教員による巡回指導を行う。
- 【実習後】
 - 【事後指導】
 - ・大学において, 異校種実習における学習内容について相互に検討し, 報告書を作成する。

授業時間外学習にかかわる情報

実習に必要な情報収集、参与観察やインタビューの観点等の作成、収集した情報の整理等

成績評価方法

- ①連携協力校の実習指導担当者による実習参加の意欲・態度等についての評価 30%
- ②大学における事前事後指導及び実習記録・報告書等による評価 70%

受講条件

受講のルール

学部卒業生：服務規律を遵守し、教師としての自覚をもって臨むこと

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	当該校種の学習指導要領			ISBN	
	著者名	文部科学省	出版社		出版年	平成20
教科書2	書名	当該校種の学習指導要領解説総則編			ISBN	
	著者名	文部科学省	出版社		出版年	平成20

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

オフィスアワー

水曜日3限

Eメールアドレス

kido.shigeru.kz@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部 1号館 2階 211

参照ホームページ

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	前学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	12P101	小規模校実習 Internship in Small Schools		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
小田 哲志, 榎木 暢子, 森田 桂子, 城戸 茂, 遠藤 敏朗, 山崎 哲司, 高橋 葉子, 井上 洋一, 立松 大祐 [ODA tetsushi, KASHIKI Nagako, MORITA Keiko, KIDO Shigeru, ENDO Toshiro, YAMASAKI Tetsuji, TAKAHASHI Yoko, INOUE Yoichi, TATEMATSU Daisuke]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 実習科目	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

「-」

授業のキーワード

実習（internship）、小規模校（Small schools）、授業改善（teaching improvement）、学級経営（classroom management）

授業の目的

愛媛県の小中学校においては、へき地指定校の割合は15%前後となっている。そのため、若年教員の多くが小規模校での勤務を経験することになる。また、学校管理職においても、経験の浅い時期に小規模校に着任することが多い。へき地・小規模校には、都市部の学校とは違い、小規模校ならではの特有の技術や方法が必要となる。そこで、小規模校における特色ある学校経営管理、または、教育指導の特性と要点を理解し、実践に生かすことが不可欠である。

授業の到達目標

学部卒業者

- ①愛媛県内における小規模校の特徴を、正しく理解し、分かりやすく表現することができる。
- ②教職大学院で習得した知識等を活用し、小規模校における授業等の実践計画を策定し実行することができる。
- ③小規模校における学習指導等の実践を通して、小規模校における効果的な実践の在り方について理解を深め、報告書にまとめることができる。

現職教員

- ①実習先の小規模校と勤務校との違いや特徴を、組織・カリキュラム・指導法等の観点を立てた上で正しく理解し、分かりやすく表現することができる。
- ②教職大学院で習得した知識等を活用し、小規模校における教育指導全般に関し、小規模校における課題解決のための具体的計画を策定し実行することができる。
- ③小規模校における学習指導・学級経営・生徒指導等の実践を通して、小規模校における効果的な実践の在り方について報告書にまとめ、提示することができる。

管理職候補者

- ①実習先の小規模校と勤務校との違いや特徴を、政策・法令・組織・カリキュラム・指導法等の観点を立てた上で正しく理解し、分かりやすく表現することができる。
- ②教職大学院で習得した知識等を活用し、小規模校の教育課題を解決するための具体的経営計画を策定し、当該校教職員に提示し検討することができる。
- ③小規模校での実習を通して、小規模校ならではの経営課題を発見し、小規模校の強みを生かした教育経営に在り方について報告書にまとめ、提示することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
 自らの個性や適性を活かして行動できる
 地域の課題を、地球規模で考え、解決に向けて貢献できる

授業概要

1年次の9月に、小規模校における2週間の実習を通して、小規模校における学習指導・生徒指導等に関する指導のポイントを経験的に理解し、実践的指導力の向上を目指す。

松山市内の連携協力校、または、へき地（特地を含む）の中から、学生の関心に合致し、また、自宅から勤務できる範囲にある小規模校を選択する。なお、特に希望する場合には、松山市内外のへき地学校、または、複式学級等少人数指導を行っている小学校または中学校で実習を行うことし、自宅から勤務できない範囲の学校でもよい。

実習の基本的な進行は以下の通りである。

- 事前指導大学において小規模校実習の目的、すすめ方等について事前の指導を行い、実習計画をたてる。
- 第1週：主として小規模校における児童生徒理解を中心に参与観察などを行う。
- 第2週：主として小規模校において授業開発・実践観察を行う。
- 事後指導大学において、異校種実習における学習内容について相互に検討し、報告書を作成する大学教員（研究者教員と実務家教員のチーム）は隔週の巡回訪問指導によって、実習生を指導する。

授業スケジュール

- (5月) 希望調査
- (7月) 実習校決定、実習計画の作成、事故課題の明確化
- (8月) 実習校との打合せ
- (9月) 実習（実習校での指導及び大学院指導教員の巡回指導による指導を受ける）
- 学部卒業生は、小規模校の複式授業、学級の児童生徒理解、教材研究、少人数を生かした授業実践、授業補助等を行う。
- 現職教員は、小規模校の教育指導に関して研究課題の探求と職能成長課題の探求に取り組む。
- 管理職候補者は、小規模校の学校運営・経営に関して総合的に実習校担当者と検討及び実施計画の策定を行い実施する。（実習後）大学において、小規模校実習での学習内容に関する検討・省察及び報告書の作成

授業時間外学習にかかわる情報

実習に係る準備全般
実習後の省察活動全般

成績評価方法

到達目標の達成状況を、下記の手順によって評価する。

- ①連携協力校の実習指導担当者による実習参加の意欲・態度及び課題への対応等についての評価
- ②大学における事前事後指導時の受講状況
- ③実習記録（日々の実習報告書・指導の記録・作成資料等）
- ④実習報告書（A4表裏1枚程度）等による評価

受講条件

受講のルール

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	—	ISBN		
	著者名		出版社		出版年

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	—	ISBN		
	著者名		出版社		出版年

教科書・参考書に関する補足情報

—

オフィスアワー

小田哲志 水3時限

Eメールアドレス

oda.tetsushi.yv@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部 1号館 3階 320室

参照ホームページ

その他

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	後学期	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	22P100	研究指定校実習 Internship in Research Advanced School		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
高橋 葉子, 山崎 哲司, 櫻木 暢子, 小田 哲志, 遠藤 敏朗, 森田 桂子, 城戸 茂, 井上 洋一, 立松 大祐 [TAKAHASHI Yoko, YAMASAKI Tetsuji, KASHIKI Nagako, ODA tetsushi, ENDO Toshiro, MORITA Keiko, KIDO Shigeru, INOUE Yoichi, TATEMATSU Daisuke]				2
■ 授業科目区分	専門教育科目（大学院） 実習科目	■ 対象学生	■ 対象年次	1～

授業題目

-

授業のキーワード

教育実習（teaching practice）、実践力の向上（development of teaching skills）、研究指定校（designated research school）

授業の目的

愛媛県内外において、研究が進められている学校を訪問し、取組を観察することにより、課題研究の質を高めるとともに、今後の実践に役立つ知識を習得する。

授業の到達目標

学部卒業者

- ① 現代的課題に対応した先進的实践を展開している学校の特徴を、正しく理解し、分かりやすく表現することができる。
- ② 研究指定校と連携協力校（地域連携実習先）との比較を通して、一般的な課題を発見し、改善案を提示することができる。

現職教員

- ① 研究指定校と勤務校との違いや特徴を、組織・カリキュラム・指導法等の観点を立てた上で正しく理解し、分かりやすく表現することができる。
- ② 研究指定校の視察実習を通して、自校の新たな課題を発見し、実行可能で具体的な改善案を提示することができる。

管理職候補者

- ① 研究指定校と勤務校との違いや特徴を、政策・法令・組織・カリキュラム・指導法等の観点を立てた上で正しく理解し、分かりやすく表現することができる。
- ② 研究指定校の視察実習を通して、自校の新たな課題を発見し、実現可能で具体的な改善案を、勤務校の校長に提示することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

必要な情報を収集・整理できる

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる

広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる

目的達成のために多様な人と協働できる

集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

授業概要

1年次後期に、学生が設定する研究課題について先駆的に実践している学校を訪問観察し、課題研究の充実と職能成長促進をめざす研究指定校実習を行う。実習期間は5日間で、事前指導と事後指導にあたる演習形式の協議会や省察授業、そして報告会を行う。

授業スケジュール

(1)9月下旬に事前指導(follow-up guidance)として、ガイダンスの実施と希望する研究内容を特定した後、学生の職能成長(professional development)及び課題研究(research on a given subject)の視点を踏まえて訪問校の決定をする。

- (2)事前の情報収集や協議等も含め、事前指導(follow-up guidance)には5時間程度をあてることになる。
(3)実習は、愛媛県内外で計5日間の訪問観察(school-visit observation)を行う。複数の教員が担当するため、学生全員が同一校に訪問するのではなく、グループに分けて訪問する場合もある。
(4)実習終了後に、事後指導(preliminary guidance)として省察協議(reflective discussion)・報告会(lesson report)の場を設ける。事後指導(preliminary guidance)は報告会(lesson report)も含めて10時間程度を自処とする。

授業時間外学習にかかわる情報

実習に必要な情報収集、資料作成、省察レポート作成

成績評価方法

- ①事前・事後指導及び視察実習における実習参加意欲・態度 20%
②実習記録・レポート 40%
③事後指導における発表内容 40%

受講条件

学研災付帯賠償責任保険への加入が必要

受講のルール

実習中は感染症への対応を十分に行い、体調管理に留意すること。
学部卒業生：服務規律を遵守し、教師としての自覚をもって臨むこと。

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	-			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

-

オフィスアワー

高橋 葉子：金曜日 16：20～17：50

Eメールアドレス

takahashi.yoko.lz@ehime-u.ac.jp

連絡先

教育学部1号館3階（326）

参照ホームページ

その他

後期授業と並行して実施するため、学校訪問日程と授業が重複することがあり、事前の公欠申請等が必要な場合もある。

■ 開講年度	■ 開講学期	■ 開講学部等		
2018	通年	教育学研究科（教職大学院の課程）		
■ 科目ナンバリング	■ 時間割番号	■ 科目名[英文名]		
	12P103	地域連携実習1 Community-based Teacher Development Practice 1		
■ 担当教員[ローマ字表記]				■ 単位数
遠藤 敏朗, 榎木 暢子, 井上 洋一, 太田 佳光, 信原 孝司, 平松 義樹, 小田 哲志, 城戸 茂, 白松 賢, 露口 健司, 橋本 巖, 山崎 哲司, 高橋 葉子, 本田 哲也, 森田 桂子 [ENDO Toshiro, KASHIKI Nagako, INOUE Yoichi, OTA Yoshimitsu, NOBUHARA Takashi, HIRAMATSU Yoshiki, ODA tetsushi, KIDO Shigeru, SHIRAMATSU Satoshi, TSUYUGUCHI Kenji, HASHIMOTO Iwao, YAMASAKI Tetsuji, TAKAHASHI Yoko, HONDA Tetsuya, MORITA Keiko]				4
■ 授業科目区分		専門教育科目（大学院） 実習科目	■ 対象学生	■ 対象年次
				1～

授業題目

地域連携実習1（教職大学院）（Community-based Teacher Development Practice1）

授業のキーワード

教育実習（Teaching Practice）、教授力の向上（Development of Teaching Skills）、教職への使命感（Cultivating a Sense of Mission for Teaching Job）、学校運営（Management of School）、リーダーシップ（Leadership）

授業の目的

地域連携実習1（事前及び事後指導を含む）は、連携協力校における通年の実習を通して、教育活動及び学校経営に対する理解を深め、現代の教育課題を解決する力を養う。

授業の到達目標

学部卒業者

- ①自らの実践的指導力の実態を踏まえた上で、具体的な実践課題を設定することができる。
- ②教職大学院の各科目において習得した知識を活用し、課題解決のための実践計画を策定することができる。
- ③実践課題の解決策を実行するとともに、適切な省察活動を行うことができる。

現職教員

- ①自らの実践的指導力の実態をデータと直観との対話を通して抽出し、具体的かつ挑戦的な実践課題を設定することができる。
- ②教職大学院の各科目において習得した知識を活用し、課題解決のための具体的計画を策定することができる。
- ③実践課題の解決策を実行するとともに、集団的省察活動を設定し実行することができる。

管理職候補者

- ①自らのリーダーシップ能力の実態をデータと直観との対話を通して抽出し、具体的かつ挑戦的な組織の変容を導く経営課題を設定することができる。
- ②教職大学院の各科目において習得した知識を活用し、課題解決のための具体的経営計画を策定することができる。
- ③経営課題の解決策を実行するとともに、その結果を評価し、実習校の職員に提示することができる。

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 目的達成のために多様な人と協働できる
 社会的関係の中で自分の行動を調整できる
 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

授業概要

毎週水曜午前、木曜午前・午後に実習を行う。
 学部卒業生は連携協力校において、学級の児童生徒理解、教材研究、授業実践、授業補助、学校行事の指導等を行う。
 現職教員は勤務校において、研究課題の探求と職能成長課題の探求に取り組む。
 実習校担当者との省察及び検討会
 大学指導教員による巡回指導及び「課題研究」による省察を行う。

授業スケジュール

<リーダーシップ開発コース>

4月 実習校決定、事前指導：実習計画作成、自己課題の明確化
5～6月 学校経営の実践、体験的な参画、学校経営の実践
7月 学校経営のとらえ及び各自の課題省察
10～11月 実践課題、経営課題への取り組み
12月 これまでの実践、取り組みの省察、研究課題まとめに向けた実践
1～2月 研究課題及び職能成長課題の省察と明確化 事後指導：報告書作成

<教育実践開発コース>

4月 実習校決定、事前指導：実習計画作成、自己課題の明確化
5～6月 授業づくりと生徒指導の実践、単元を見通した授業実践
7月 1学期の学級づくり及び各自の課題省察
10～11月 中心的な学習プロジェクトへの取り組み
12月 これまでの実践、取り組みの省察、研究課題まとめに向けた実践
1～2月 研究課題の省察と明確、事後指導：報告書作成

授業時間外学習にかかわる情報

実習に必要な情報収集、教材作成、資料作成等を適宜行う。

成績評価方法

- ①連携協力校の実習指導担当者による実習参加の意欲・態度及び課題への対応等についての評価 50%
- ②大学における事前事後指導及び実習記録・レポート等による評価 50%

受講条件

受講のルール

実習中は感染症への対応を十分に行い、健康管理に留意すること。
学部卒業生：服務規律を遵守し、教師としての自覚をもって臨むこと。

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	—	ISBN	
	著者名		出版社	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	—	ISBN	
	著者名		出版社	

教科書・参考書に関する補足情報

学部卒業生：実習学年に対応する教科書・指導要領解説書を購入すること

オフィスアワー

金曜3限（12：40～14：10）

Friday 12:40～14:10

Eメールアドレス

kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp

連絡先

研究室：教育学部4号館2階（オフィスアワー以外に訪問する場合は、必ず予約を取ること。）
089-927-9521（直通）

参照ホームページ

その他

開講年度	開講学期	開講学部等		
2018	通年	教育学研究科（教職大学院の課程）		
科目ナンバリング	時間割番号	科目名[英文名]		
	12P104	地域連携実習2 Community-based Teacher Development Practice 2		
担当教員[ローマ字表記]				単位数
遠藤 敏朗, 榎木 暢子, 井上 洋一, 太田 佳光, 信原 孝司, 平松 義樹, 小田 哲志, 城戸 茂, 白松 賢, 露口 健司, 橋本 巖, 山崎 哲司, 高橋 葉子, 本田 哲也, 森田 桂子 [ENDO Toshiro, KASHIKI Nagako, INOUE Yoichi, OTA Yoshimitsu, NOBUHARA Takashi, HIRAMATSU Yoshiki, ODA tetsushi, KIDO Shigeru, SHIRAMATSU Satoshi, TSUYUGUCHI Kenji, HASHIMOTO Iwao, YAMASAKI Tetsuji, TAKAHASHI Yoko, HONDA Tetsuya, MORITA Keiko]				4
授業科目区分	専門教育科目（大学院） 実習科目	対象学生	対象年次	2～

授業題目

地域連携実習2（教職大学院）（Community-based Teacher Development Practice2）

授業のキーワード

教育実習（Teaching Practice）、教授力の向上（Development of Teaching Skills）、教職への使命感（Cultivating a Sense of Mission for Teaching Job）、学校運営（Management of School）

授業の目的

地域連携実習2は、連携協力校における通年の実習を通して、教育活動及び学校経営に対する理解を深め、現代の教育課題を解決する力を高める。

授業の到達目標

学部卒業者

- ①学校の1年間の流れを、学級担任の視点から理解することができる。
- ②学級担任としての基本的な実践的指導力を習得することができる。
- ③教員として実践的指導力を高め続ける方法についての持論を導き出すことができる。

現職教員

- ①学校の1年間の流れを、教務主任・研究主任等の視点から理解することができる。
- ②ミドルリーダーとして学校の組織力や同僚教員の実践的指導力を高める能力を習得することができる。
- ③教員の実践的指導力を持続的に改善する方法についての持論を導き出すことができる。

管理職候補者

- ①学校の1年間の流れを、管理職の視点から理解することができる。的な組織の変容を導く経営課題を設定することができる。
- ②学校管理職として、学校の組織力を高め、保護者・地域と信頼を構築するための能力を習得することができる。
- ③学校組織の持続的改善の方法についての持論を導き出すことができる

愛媛大学学生として期待される能力（愛大学生コンピテンシー）に関わる項目

習得した知識や技能を基に自分の考えを組み立て、適切に表現（記述・口述）できる
 広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
 目的達成のために多様な人と協働できる
 社会的関係の中で自分の行動を調整できる
 集団・組織の一員として自覚と誇りをもって行動できる

授業概要

この授業では「課題研究」のテーマに沿って、実習を行う。
 学部卒業者は連携協力校において、学級の児童生徒理解、教材研究、授業実践、授業補助、学校議事の指導等を行う。
 現職教員は勤務校において、研究課題の探求と職能成長課題の探求に取り組む。
 実習校担当者との省察及び検討会、大学指導教員による巡回指導及び「課題研究」による省察を行う。

授業スケジュール

<リーダーシップ開発コース>

4月 実習計画作成、自己課題の明確化
4～7月 学校経営の実践、主体的な参画
9～11月 実践課題、経営課題への取り組み
12月 研究課題及び職能成長課題への取り組みの考察
1～2月 研究課題及び職能成長課題への取り組みの考察、報告書作成

<教育実践開発コース>

4月 実習計画作成、自己課題の明確化
4～7月 学級経営と学習指導、生徒指導の実践
9～11月 中心的な学習プロジェクトへの取り組み
12月 研究課題への取り組みの考察
1～2月 研究課題への取り組みの考察、報告書作成

授業時間外学習にかかわる情報

実習に必要な情報収集、教材作成、資料作成等を適宜行う。

成績評価方法

- ①連携協力校の実習指導担当者による実習参加の意欲・態度及び課題への対応等についての評価 50%
- ②大学における事前事後指導及び実習記録・レポート等による評価 50%

受講条件

受講のルール

実習中は感染症への対応を十分に行い、健康管理に留意すること。

教科書（購入の必要のある図書）

教科書1	書名	—			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

参考書（購入する必要はないが、推奨する図書）

参考書1	書名	—			ISBN	
	著者名		出版社		出版年	

教科書・参考書に関する補足情報

学部卒業生：実習学年に対応する教科書・指導要領解説書を購入すること

オフィスアワー

金曜3限（12：40～14：10）

Friday 12:40~14:10

Eメールアドレス

kashiki.nagako.mc@ehime-u.ac.jp

連絡先

研究室：教育学部 4号館 2階（オフィスアワー以外に訪問する場合は、必ず予約を取ること。）
089-927-9521（直通）

参照ホームページ

その他
